公益財団法人　日本ハンドボール協会 編
令和元年11月1日発行（毎月１回１日発行）　通巻596号

# ハンドボール

11
NOV.2019
No.596

●第74回国民体育大会ハンドボール競技会
●第27回日韓中ジュニア交流競技会

公益財団法人　日本ハンドボール協会

挑戦を続けた日々が、大舞台へと届くように。
諦めない気持ちと、熱い感動を、世界中へ届けるために。

ヤマト運輸はジャパンハンドボールオフィシャルパートナーです。

ヤマトホールディングスは、
東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナーとして、
東京2020オリンピック競技大会を応援しています。

TOKYO 2020

ヤマトホールディングス

東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー
ヤマト運輸はヤマトホールディングスのグループ会社です

# プレミアム・リゾートという選択

## 一戸建て住宅型有料老人ホーム

**メディケアサポートHABA**

**2017年12月伊豆高原にオープン**

**12/1(金)より予約申し込み開始！**

**☎ 0557-51-7887 （担当 土屋・はば）**

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ )シリーズや、社有物件も展開！
待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。
弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

私達、株式会社ユリカコーポレーションは
女子ハンドボールを応援しています!!

**株式会社ユリカコーポレーション**

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188　　http://yurika-co.jp/

あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER

国内線のお問合せ 0570-029-222（全国一律料金） 国際線のお問合せ 0570-029-333（全国一律料金） www.ana.co.jp

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO

# Behind Your "Best"

車いすバスケットボール
鳥海 連志 選手

バドミントン
松友 美佐紀 選手

競泳
瀬戸 大也 選手

バドミントン
高橋 礼華 選手

ハンドボール
原 希美 選手

ハンドボール
永田 しおり 選手

ハンドボール
横嶋 彩 選手

空手
喜友名 諒 選手

5人制サッカー
加藤 健人 選手

5人制サッカー
黒田 智成 選手

パラ水泳
一ノ瀬 メイ 選手

パラ水泳
木村 敬一 選手

パラ水泳
山田 拓朗 選手

©The Asahi Shimbun via Getty Images
©Atsushi Tomura/Getty Images for Tokyo 2020
©Junya Nishigawa - PARAPHOTO/Getty Images
©Ian MacNicol/Getty Images ©JBFA ©X-1

## 味の素㈱は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。

＼ がんばる人のチカラになるごはん ／

# 勝ち飯®

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。
味の素㈱は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、
彼らのカラダづくりを支えています。

TOKYO 2020 | AJINOMOTO | TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

東京2020オフィシャルパートナー
(調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品)

ハンドボール 11月号 №596

【表紙の写真】
第74回国民体育大会ハンドボール競技
（写真提供：スポーツイベント社）

# CONTENTS


07 ハンドボール界に新たなアイデアとイノベーションを
——（公財）日本ハンドボール協会理事・山本多絵子

体罰・ハラスメントが原因でスポーツ嫌いをうみださないために
——（公財）日本ハンドボール協会理事・石井登帆子

09 第74回国民体育大会ハンドボール競技
10 大会を振り返って——茨城県協会理事長・古矢　勲
12 少年男子優勝：香川県（香川中央高校）——主将・田井健志
13 少年女子優勝：福岡県（明光学園高校）——主将・村上　楓
14 成年男子優勝：埼玉県（大崎電気）——監督・近藤恒俊
15 成年女子優勝：石川県（北國銀行）——監督・荷川取義浩
16 戦評

24 2020東京オリンピック出場枠12ヵ国【女子】

第27回日韓中ジュニア交流競技会
25 メンバーリスト
26 参加報告——総監督・北中弘規
28 参加報告——男子監督・平井徳尚、主将・伊禮雅太、副主将・金岡宙斗
31 参加報告——女子監督・本田眞吾、主将・後藤ほたる、副主将・秋吉七海

ナショナルトレーニングアカデミー（NTA）欧州育成合宿（男子・女子）
34 NTA 副委員長・松永康宏
35 男子代表・鴻巣開輝、女子代表・小山　茜
36 男子選手団名簿
37 女子選手団名簿

38 第24回女子世界選手権熊本大会参加に向けて
——国際審判員・池渕智一、檜﨑　潔

40 改めて、今、部活動を考える【その２】
——ジャーナリスト・島沢優子


**がんばれハンドボール 20 万人会「サポート会員」９月入会・継続会員**

【東京】土田　健、館野直子、平賀とみ子、梶間珠美【静岡】安野順一【愛知】田中基明、登丸亨介、深谷帆波、松下雅人、牧野千別【三重】加藤　祥【大阪】秦　隆二、秦　伊織、宮﨑　寛【兵庫】高祖加奈子【広島】青戸克好【香川】稲毛浩司

次号 12 月号（№ 597）は 12 月 1 日発行予定です。

# ハンドボール界に
# 新たなアイデアとイノベーションを

公益財団法人 日本ハンドボール協会 理事
ハンドボール成長推進本部担当理事　特命（社会貢献推進委員会）

## 山本 多絵子

日頃、日本ハンドボール協会の事業運営にご支援ご協力を賜わり、心より御礼申し上げます。本年７月より協会の理事に就任いたしました山本多絵子です。中学・高校時代、ハンドボール部に所属し、ハンドボール一色の青春時代を過ごしました。その後大学を卒業し、外資系 IT 企業に勤務をしてからは、ハンドボールに注いだパッションとエネルギーを、そっくりそのまま仕事に注ぎあっという間の 30 年を駆け抜けて参りました。

スポーツとは離れていても、TV や競技場で、選手が自分自身の限界に挑戦し、汗や涙を流すシーンを目にするたびにあの頃の熱い思いが蘇り、いつか自分を育ててくれたハンドボールに恩返しが出来たらと願っておりました。今回のご縁は大変有難く、謙虚に精一杯、できることからチャレンジしていきたいと考えています。

私自身が属している IT 業界は、変化が激しく、日々ダイナミックに物事が動いています。一人一人が “Growth Mindset” をもって、テクノロジーが社会、組織、人々の生活をより良いものにできると信じて努力をしています。

ハンドボールも、既に始まっているように、最先端のテクノロジーを取り入れることにより、様々な価値を高めることができると思います。色々な経験と知見をもった人たちがハンドボール界に参加することにより新たなアイデアと、異なる社会との繋がりでイノベーションが生まれ、進化を遂げると信じています。

目前となった熊本での女子世界選手権、そして東京オリンピックの成功と、ハンドボール界の未来に、微力ながら、貢献ができるよう頑張りたいと思いますので皆様のご支援、何卒宜しくお願い致します。

# 体罰・ハラスメントが原因で
# スポーツ嫌いをうみださないために

公益財団法人 日本ハンドボール協会 理事
インテグリティ推進本部担当理事　特命（体罰・パワハラ撲滅委員会）

## 石井 登帆子

今年７月理事に就任いたしました石井登帆子です。ハンドボールの機関誌であることは承知していますが、この原稿を書いている今、日本中がラグビー W 杯に夢中です。選手たちの全力プレーに一喜一憂、スポーツの持つ最大の魅力「一体感」を味わっています。

スポーツの素晴らしさを感じる一方、残念ながらスポーツ強豪校の体罰やハラスメントのニュースも紙面を飾っています。部活の体罰が成人後もトラウマとなり、心に長く大きな傷を残し苦しんでいる人々がいることを忘れてはいけないでしょう。ハンドボールでも体罰指導問題は皆さんの記憶に新しいことと思います。

好きで始めたスポーツを体罰やハラスメントが原因で嫌いになり、スポーツ自体から離れてしまえば、その後はスポーツに対して負の感情しか生み出さないでしょう。

お互いへの信頼や敬意、尊敬が存在し、本来の自分を安心してさらけだしても大丈夫だという場の状態や雰囲気をあらわす『心理的安全性』。ハンドボールに関わる皆さんはこの心理的安全性を感じる環境、当たり前になっていますでしょうか。当たり前のことが当たり前になる、ごく自然なことになるよう皆さまとともに取り組んでまいりたいと思います。

All rights reserved ©IHF
※写真提供：日本ハンドボール協会

# 世界が、ぶつかる。

熊本 開催

2019

# 女子ハンドボール世界選手権大会

## 11.30(土)_12.15(日)

チケット情報は、中面にて！

2019女子ハンドボール世界選手権大会
24th IHF WOMEN'S HANDBALL WORLD CHAMPIONSHIP KUMAMOTO/JAPAN 2019

Hand in Hand
1つのボールが世界を結ぶ

IHFパートナー　Gerflor　GRUNDFOS　hummel　Lagardère　molten For the real game

大会公式スポンサー　you me　OMRON　肥後銀行

主催／国際ハンドボール連盟　主管／公益財団法人日本ハンドボール協会・一般財団法人2019女子ハンドボール世界選手権大会組織委員会

スポーツくじ BIG

開催期間：2019 年 10 月 3 日～ 10 月 7 日
開 催 地：茨城県・坂東市、常総市、守谷市
会　　場：坂東市総合体育館、県立岩井高等学校体育館、水海道総合体育館
県立水海道第二高等学校体育館、常総運動公園体育館

# 第74回国民体育大会
# 「いきいき茨城ゆめ国体2019」
# ハンドボール競技会

# 天皇陛下御即位記念第74回国民体育大会
# いきいき茨城ゆめ国体ハンドボール競技会を振り返って

茨城県ハンドボール協会理事長　古矢　勲

茨城県では、昭和 49 年に水海道市（現常総市）で開催されて以来 45 年ぶりの開催となります。「翔べ　羽ばたけ　そして未来へ」の大会スローガンのもと、10 月２日（水）のオープニングセレモニー・諸会議を皮切りに、10 月３日（木）から７日（月）までの５日間、全国各９ブロックの激戦を勝ち抜いた成年男女 35 チーム、少年男女 35 チームの合計 70 チームが集結し、守谷市・常総市・坂東市の３市５会場において熱戦が繰り広げられ、会場を訪れた多くの皆様に大きな夢と感動を与えていただき、全日程を終了することができました。

国体開催に向けた準備は、守谷市・常総市・坂東市実行委員会が中心となり、平成 28 年から本格的にスタートしました。本県では、近年各カテゴリーの全国大会の開催経験がありましたが、国体の開催は 45 年ぶりということもあり、先催各県の皆様に多くのアドバイスをいただきながら準備・運営を進めてまいりました。ご協力をいただいた皆様に心より厚くお礼申し上げます。

また今回は、10 月５日（土）水海道総合体育館に高円宮承子女王殿下をお迎えすることができました。関係者や観客の皆様には警備等の関係でご協力をいただきましたが、（公財）日本ハンドボール協会湧永寛仁会長、市原則之顧問のご説明のもと、女王殿下にハンドボール競技をご観覧いただきました。

運営面では、競技会場が５会場に分散したことで、役員・係員・補助員とも多くの人員を要することになりました。また、少年種別会場となった水海道総合体育館と県立水海道第二高等学校体育館では、35 試合を消化するため２日目までは１日６試合の運営が必要となり、午前９時から試合がスタートして試合終了が午後７時近くになり、多くの方が大変な業務となってしまいました。そのような中での皆様の懸命な働きに感謝申し上げます。また、各会場共に予想以上の方々が応援観戦に来てくださり、駐車場や観客席等でご迷惑をおかけしましたことに深くお詫び申し上げます。地域のハンドボール競技の普及・啓発には、３市実行委員会と県ハンドボール協会が４年以上前から日本リーグや学生リーグなどを招聘したり小中学生のハンドボール教室を開催したりするなどして、ハンドボール競技の認知を高める努力をしてまいりました。

競技は、成年男子では、二連覇中の埼玉県（大崎電気）が５月の全日本社会人選手権大会に続き、安定した戦いぶりで三連覇を達成しました。成年女子では、石川県（北國銀行）が全日本社会人選手権大会に続き優勝を飾ると同時に、国体７連覇と

いう偉業を達成しました。少年男子では、春の選抜・夏のインターハイの覇者県立香川中央高等学校の香川県が、少年女子でも春の選抜・夏のインターハイの覇者明光学園高等学校の福岡県が各県に研究され接戦の多い中優勝し、共に全国大会３冠の偉業を成し遂げました。

大会期間中、たくさんの観客の皆様に会場まで足を運んでいただき、大会を盛り上げていただきました。その中、地元茨城県選手団は多くの県民、観客の皆様の応援を背に戦い、会場を大いに沸かせ、男女総合優勝・女子総合優勝を勝ち取ることができました。成年男子では、大崎電気と各大学のご理解・ご協力をいただき「ふるさと選手制度」等で、地元茨城県から出場することができたため、１回戦で山口県、２回戦で愛知県、準々決勝で富山県、準決勝で宮城県に勝利し決勝までコマを進めることができました。決勝では、国体２連覇中の埼玉県（大崎電気）に敗れましたが、見事第二位という素晴らしい成績を収めることができました。成年女子では、筑波大学に大阪体育大学の相澤菜月選手が加わり、１回戦で北海道、準々決勝で鹿児島県、準決勝で広島県に勝利し決勝まで進み、国体６連覇中の石川県（北國銀行）に敗れましたが、見事な快進撃で第二位を勝ち取りました。少年男子では、インターハイ２回戦敗退の屈辱を果たすべき強化に取り組み、１回戦･準々決勝で強豪大分県、福井県に勝利し､準決勝で３冠を狙う香川県には敗れましたが、３位決定戦で見事山口県に勝利しました。少年女子では、２回戦で愛知県に勝利し、準々決勝でインターハイベスト４の大分県に敗れはしたものの、試合途中１点差まで追い上げる試合展開でベスト８に入り会場を盛り上げてくれました。改めて各種別の選手、スタッフのこれまでの努力と健闘に敬意を表したいと思います。

大会を終えて、守谷市・常総市・坂東市にお越しいただいた選手・役員・応援観戦の皆様にご迷惑・ご不便をおかけしたことが多々あったと思いますが、何とか無事に大会を終了することができました｡これもひとえに､大会開催にあたりまして様々な面でご指導・ご支援をいただきました公益財団法人日本ハンドボール協会、たくさんのアドバイスをいただきました先催県の皆様、長年にわたり誠心誠意準備にあたっていただきました守谷市・常総市・坂東市の実行委員会の皆様、大会運営を支えていただいた審判員、競技役員、競技会係員、補助員、関東ハンドボール協会関係者の皆様、おもてなしの心で大会を支えていただいた運営ボランティアの皆様、花いっぱい運動や手づくり応援のぼり旗の製作等に取り組んでいただき、会場を彩り盛り上げていただいた３市の小中高生、関係機関、団体、企業等の皆様のご協力の賜と心から感謝申し上げます。

最後に、来年鹿児島県で開催されます第 75 回国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」のご成功をご祈念申し上げます。

（写真提供：スポーツイベント社）

【少年男子優勝】

# 香川県（香川中央高校）

香川中央高校主将　田井 健志

まず始めに、第 74 回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」の開催にご尽力いただきました関係各位の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、私達はこの度の国民体育大会で香川県勢初の優勝を果たしました。そして、今回の優勝をもちまして春夏に続き三冠を達成することができました。ここ数年間続いている三冠の流れを、私達の代で断つことなく、達成できたことにほっとすると同時に嬉しく感じています。

本戦では初戦から厳しい試合の連続でした。特に準決勝の茨城戦は完全アウェーの状態での試合でした。会場全てが地元の大応援団となり、体育館に響き渡る歓声は圧巻でした。しかし、試合をする上でのプレッシャーなどはあまり感じることなく、逆に私達の声援だと思って戦うことができました。優勝をかけた決勝戦では、点を取っては取られる、とても緊迫した試合になりました。点が入らない時間帯が続くこともありましたが、そういうときこそ、私達の得意な組織的なディフェンスで粘り、最終的には 1 点差で勝つことができました。

結果、三冠を達成することができましたが、私達の力だけでは絶対に勝てなかったと思います。厳しい言葉をかけ精神力を鍛えてくれた河合先生、赴任半年で緻密なハンドボールを教えてくれた田中先生、この先生方の力なくして勝つことはできませんでした。春には河合先生、夏には田中先生、秋にはその両先生にベンチに入ってもらい指導してもらえたことは私達にとって最高の思い出です。また、サポートをしてくれた保護者の方々、試合をする環境を提供してくれた様々なひとにも感謝しています。ありがとうございました。

国民体育大会が終わり、高校生としての私達のハンドボールは終わりましたが、私達の人生においてはまだ無限に続いていくので、日々成長できるようこれからも努力していきます。

（写真提供：スポーツイベント社）

【少年女子優勝】

# 福岡県（明光学園高）

明光学園高等学校副主将　村上　楓

私たち明光学園ハンドボール部は、春の選抜大会、夏のインターハイ、そして先日行われた国体で優勝し、高校三冠を達成することができました。私たちは昨年の 10 月、新チームになってから「三冠」という目標を立て、毎日練習に取り組んできました。辛いことも沢山ありましたが、チームのみんなで励ましあい、周りの沢山の方々に支えられ乗り越えることができました。

春の選抜大会では、初出場の大会ということで緊張もありましたが、自分たちの強さを見せ優勝できとてもいい経験になりました。

夏のインターハイでは、春の優勝からのプレッシャーや追われる身としてのプレッシャーもあり苦しい試合が続きましたが、粘りを見せ優勝することができました。そして、国体では高校三年間の集大成なので全力でハンドボールを楽しもうという気持ちで、全員で大会に臨みました。インターハイの時よりもさらに厳しい試合が続きましたが、苦しい時にこそ全員で楽しみ優勝することができました。

高校三冠を達成し、また国体を通して私たちはたくさんの方々に支えられていることを改めて実感しました。学校の先生方が遠い会場まで足を運んでくださり、応援して頂いたことがいつも私たちの力になりました。また大会の運営をしていただいたスタッフの方々あのような素晴らし環境でハンドボールができたこと私たちは幸せだと思います。本当にありがとうございました。

今回の三冠は私たちだけで勝ち取ったものではなく、周りの方々の支えや応援のおかげで勝ち取ったものです。本当にありがとうございました。これからも応援よろしくお願いします。

（写真提供：スポーツイベント社）

【成年男子優勝】

# 埼玉県（大崎電気）

埼玉県成年男子監督　大崎電気ハンドボール部　**近藤 恒俊**

## 第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」を振り返って

この度、天皇陛下御即位記念 第 74 回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体 2019」の成年男子の部において、私たち大崎電気は埼玉県代表として３年連続、通算 24 回目の優勝をすることが出来ました。

これも偏に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡辺オーナーをはじめ従業員の皆様、そして埼玉県スポーツ協会、埼玉県ハンドボール協会関係者の方々のご支援、ご声援あってこその結果だと思っています。

また大会開催にあたりご尽力いただいた茨城県ハンドボール協会をはじめ、日本ハンドボール協会、また地元の守谷市・常総市・坂東市のボランティアの皆様、成年男子会場の坂東市実行委員会、ならびに関係各位の皆様に改めて、心より厚く御礼申し上げます。

そしてこの優勝は、日々のハードなトレーニングを積み重ねてきた選手の努力の賜物だと思っています。

国民体育大会は 12 名の大会及びベンチ登録のみ（国体以外は 16 名ベンチ登録）。大会が始まれば怪我をしても選手の入れ替えが出来ない状況で、決勝戦の地元・茨城県との対戦では普段一緒にプレーしている選手との攻防になりました。

今大会、所属選手４名をふるさと選手として戻して大会に臨み、チームは国体への取り組みとして、新たな挑戦でしたが、最高の結果で大会を終えることができました。試合に出場している選手は勿論、登録を外れた選手もチームの為に最善を尽くし、選手・スタッフ全員が役割を果たしてくれたことが結果につながったと感謝しております。

今大会のスローガン「翔べ　羽ばたけ　そして未来へ」にもあるようチーム全員が目標に向かって羽ばたくことができました。今大会での優勝という結果を誇りに思い、大崎電気としては次のタイトルに向け再出発し、継続して優勝をできるよう、これまで以上の努力を重ねていきます。

これからも大会ごとに成長し、国内で継続して勝てるチーム、そして世界に通用するチームを目指して日々、精進していきます。今後ともご支援、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

（写真提供：スポーツイベント社）

【成年女子優勝】

# 石川県（北國銀行）

北國銀行ハンドボール部監督　荷川取 義浩

始めに第 74 回国民体育大会の開催にあたり、ご尽力を賜りました日本ハンドボール協会並びに茨城県ハンドボール協会、国民体育大会実行委員会をはじめとします関係各位の皆様方へ心より感謝申し上げます。

この度の第 74 回国民体育大会において、７年連続 12 回目の優勝を達成する事が出来ました。これも偏に日頃よりご支援・ご声援を頂いております石川県体育協会・石川県ハンドボール協会並びにサポーターの皆様方、ご家族の皆様方、そして、チーム強化に強力なバックアップをして頂いております安宅頭取をはじめとします役員・行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

試合会場においても多くのボランティアの皆様方が、設営・運営に携わって、心温まる大会を演出して頂きました事も重ねて、心より御礼申し上げます。

さて、今年は熊本での世界選手権大会を控え、多くの注目を集めた中行われました。

１回戦は千葉県に勝利し、準々決勝も香川県のアグレッシブな攻防に苦しめながらも 31 対 17 で下し、準決勝進出を果たす。

準決勝は熊本県（オムロン）との対戦。

序盤から中盤は全くの互角、終盤にディフェンスが安定してリードを奪い、14 対８で前半を終える。後半の中盤までは不安定なディフェンスが続き、熊本県（オムロン）の粘りに遭うが、中盤以降は立て直しに成功。前半のリードを有効に活かし、29 対 20 で決勝進出を果たす。

決勝は、地元茨城県（茨城選抜）との対戦。準々決勝で鹿児島県、準決勝で広島県の日本リーグ勢を倒して勝ち上がった筑波大学･大阪体育大学との混成チーム。ポテンシャルの高い選手が多く、若さと勢いを感じながらのスタート。

立ち上がり固さが見える茨城県に対して、４連取し上々の滑り出し。その後勢いを取り戻した茨城県に追い詰められる。パワフルなポストプレーを止められず、４点差のまま終盤へ。残り９分でディフェンスが機能し、15 対８で前半を終える。

後半立ち上がりから中盤までは一進一退が続いたが、中盤以降はディフェンスが安定し、33 対 16 で勝利し、７年連続 12 回目の優勝を飾る事が出来ました。

この結果に満足する事無く、多くの皆様方に夢と感動を与えられるようより一層精進致しますので、今後ともご支援･ご声援を宜しくお願い申し上げます。

## 【少年男子：戦評】

### ◆準決勝：大阪府　27（14-7、13-14）21　山口

1 戦ごとに力をつけて勢いに乗る両チームの対戦となった準決勝は、大阪のスローオフで熱戦の火蓋が切られた。立ち上がりから両チームはディフェンスラインを上げプレッシャーをかける。大阪府はフローター陣の強力な突破から木村・泉本・泉本らが得点を挙げ、4 点差がついたところで山口県はタイムアウトをとる。その後、山口県は大阪府の DF を突破するも大阪府 GK 今井に阻まれ、松川の 3 連取なども重なり点差をつけられ終盤を迎えた。終盤、山口県は松本のミドルシュートで反撃をするも、大阪府の 7 点リードで折り返す。

後半開始 3 分山口県田丸が退場する。その間、大阪府松川・泉本の 2 連続速攻で主導権を握った。山口県は松本のカットイン、梅岡のサイドシュート、田丸の速攻、ディスタンスシュートで粘りを見せるが、大阪府はダブルスカイプレーを成功させるなど流れを渡さずにゲームを進めた。残り時間 10 分を切り、山口県は梅岡が立て続けに 2 本のミドルシュートを決める。さらに、松本・野々下の連続速攻が決まると、大阪府はタイムアウトを要求。その後、山口県は大阪府 OF を 1 得点に抑えるも、GK 今井の好セーブに阻まれ点差を縮めることができなかった。勢いに乗る大阪府は、3 冠のかかる香川県との決勝戦に挑む。

### ◆準決勝：香川県　25（13-8、12-6）14　茨城県

今大会最多の観客数になった注目の一戦は、7 人 OF から香川県谷のミドルシュートで幕を開けた。その後、お互いの GK の好セーブが続き、ロースコアの展開が続く。その中でも香川県は、ダブルポストのブロックを利用した OF で 15 分までに 2 点のリードを奪う。中盤、茨城県は大竹のミドルシュートで応戦するが、OF の反則から香川県高尾に速攻を決められたところでタイムアウトを取る。その後は、7 人 OF で得点を重ねる香川県と、瞬間的なダブルポストで DF を寄せてサイドから得点を奪う茨城県の一進一退の攻防が繰り広げられた。残り 1 分半で香川県田井の退場を誘った茨城県だったが、数的有利を活かせず 5 点ビハインドで前半を折り返した。

後半序盤、茨城県はで足の速い香川県の DF に対し、7 人 OF で対抗する。8 分、香川県の隙を見逃さず茨城県布田の速攻が決まるが、負けじと谷が連続でミドルシュートを決める。11 分、茨城県は香川県大須賀に速攻を決められタイムアウトを要求。茨城県は香川県のトップディフェンスに対し早いパスワークから得点を重ねるも、要所で香川県谷にミドルシュートを決められ、6 点差で残り 10 分を迎えた。終盤、茨城県は変則的な 5:1DF からの速攻で攻撃のペースを上げるも、最後まで集中した DF を見せる香川県に敗れた。最後まであきらめずに戦った選手と大声援を送り続けた会場が一体となる素晴らしい試合だった。

### ◆ 3 位決定戦：茨城県　32（15-11、17-11）22　山口県

3 位決定戦は茨城県と山口県の対戦。3 年前の全中では茨城県が勝ち、JOC 全国大会では山口県が勝っている。最終決戦の舞台は整った。試合前からボルテージは最高潮、意地と意地がぶつかり合う熱い戦いが期待される。

先制点は茨城県田口の速攻で力強く得点する。山口県も梅岡のカットインで反撃する。お互いの持ち味が発揮され、スピーディーなゲーム展開になる。序盤にリードしたのは茨城県。エース後藤の強烈なミドルシュートがゴールネットを揺らし、たまらず山口県はタイムアウトを申請する。その後、両 GK がナイスセーブを連発し、ゴールを守る。守りあう展開だが、茨城県馬場のカットイン、布田のサイドシュート、後藤のミドルシュートで 3 連取し、22 分には 12 対 6 とリードを広げる。流れをつかみたい山口県は、相手のミスから速攻を仕掛けて 3 連取する。前半は 15 対 11 で茨城県がリードで折り返した。

後半も茨城の大応援団の声援に背中を押されて、茨城県が躍動する。大竹のカットイン、新堂の速攻などで得点し、守っては運動量の多い 6：0DF で粘り抜く。山口県はポストを利用した攻撃や、松本のミドルシュート、スカイプレーで応戦する。差を広げては追い上げての展開は続いたが、18 分を過ぎて茨城がスピードに乗ったプレーで相手を圧倒し、怒涛の 4 連取。28 対 18 とリードを広げる。その後も茨城県大山、楠本の好セーブもあり、流れは変わらず、32 対 22 で試合終了。

地元国体でプレッシャーもあった中、茨城県選手が重圧を勇気に変えて戦う姿は、見ている人に感動を与えた。最後まで全力を尽くした両チームの健闘を称えたい。

## ◆決勝：香川県　27（14-11、13-15）26　大阪府

３冠を目指し危なげなく勝ち上がってきた香川県と強力なフローター陣を擁し勝ち進んできた大阪府の決勝戦、大阪府が木村のミドルシュートで先制点を奪う。直後に香川県木太がミドルシュートで返す。お互いが DF ラインを高めに設定し、それを突破しあう決勝戦にふさわしい一進一退の攻防が繰り広げられる。19 分、香川県木太の速攻が決まると、この試合初めてのリードを許した大阪府はタイムアウトをとる。すぐさま泉本のカットインシュートで追いつき、木村のカットインシュートで逆転をする。香川県も意地を見せ、GK 黒川の気迫のセーブから４連続得点を奪い、３点のリードで前半を折り返した。

後半立ち上がりもお互い譲らず好ゲームを展開する。しかし大阪府は８分、９分に連続で退場者を出してしまう。その間、香川県は大須賀のサイドシュート、谷の 7mT で５点のリードを奪う。さらにフリースローから大須賀がミドルシュートを決めたところで大阪府は慌ててタイムアウトをとる。立て直しを図る大阪府は、DF ラインを下げ、ロングシュート勝負に出る。この作戦が功を奏し、DF から速攻につなげて点差を詰める。さらには香川県木太の退場も誘い、残り７分で４点差まで追い詰める。香川県はタイムアウトを取るも大阪府の流れは変わらない。一時は最大８点あった差が、残り４分２点差、残り１分１点差と怒涛の追い上げを見せるが、この勝負に終止符を打ったのは香川県中村のポストシュートだった。最後に大阪府松川がミドルシュートを決めるも反撃はここまで。

令和最初の茨城国体、少年男子は香川県の初優勝・３冠で幕を閉じた。

写真提供：スポーツイベント社

## 【少年女子：戦評】

## ◆準決勝：福岡県　24（8-10、11-9、3-2、2-1）22　三重県

本日の第１試合は昨日、一人で 11 点を決めた南川を中心とする三重県と、年間グランドスラムまであと２勝とする福岡県との戦いとなる。この試合の見どころは三重県南川が福岡県の堅い DF から何点決めることができるかである。

福岡県のスローオフで試合が始まった。堅さの見える福岡県に対して思い切りの良い三重県が南川、伊東の連続得点、森田のシュートを決める。福岡県も村上、白石、中園のシュートが決まり、互角の戦いを見せる。しかし、三重県の GK 加藤の好キープ、南川のパスカットなどで 15 分過ぎには５対３と三重県がリードする。その後、三重県の退場から福岡県も同点に追いつくが、ミスが多く三重県の勢いを止めらない。前半は８対 10 で三重県がリードする。

後半５分過ぎに三重県は退場者が出る。この２分間の間に福岡県は１点差まで縮めるが、三重県の勢いは止まらない。南川の連続シュートが決まり 10 分過ぎには 15 対 12 と三重がリードする。その後は両チームとも堅い DF で点数が動かない。しかし、19 分過ぎに福岡県は中園の２連続ポストシュートで 16 対 16 とついに追いつく。福岡県は 21 分過ぎに長谷川のロングシュートが決まり 17 対 16 と逆転する。23 分過ぎには福岡県 GK 森の好キープ、三重県伊東のポストシュートなどで同点が続くが、ついに三重県森田のシュートで逆転。しかし、福岡県も白石のシュートで追いつく。最後は

福岡県村上のシュートが決まり、19 対 18 と試合が決まると思われたが、残り 1 秒で三重県古川のシュートが決まり延長戦となる。延長戦は福岡県のスローオフである。福岡県は中園の 7mT、白のシュート。三重県は南川のシュートが決まり延長前半は 22 対 21 と福岡県のリードで折り返す、延長後半は福岡県中園のシュート、GK 好キープで 2 点差とするが、三重県も南川のシュートで 1 点差とする。最後は福岡県松永のシュートが決まり 24 対 22 で福岡県が勝利した。両チームの健闘を讃えたい。

## ◆準決勝：東京都　33（17-7、16-12）19　大分

準決勝第 2 試合は、夏の雪辱を狙う東京都と、ここまで順当に勝ち上がってきた大分県の戦いとなった。

東京都は、スローオフから 4：2DF でボールを奪うと布施が速攻を決めて幸先よく先制する。その後、大分県は髙橋のミドルシュートで応戦するも、東京都は DF からの速攻で圧力をかけ、平野のサイドシュートや髙橋のディスタンスシュートを絡め 3 連取した。たまらず大分県はタイムアウトを要求。落ち着きを取り戻したかに見えたが、12 分萩野の退場を機に点差を広げられてしまう。中盤以降、髙橋・萩野の両左腕を中心に得点を重ねる大分県と、7 人攻撃でノーマークを作り出す東京都の点の取り合いとなる。終盤、大分県は 7 人攻撃を試みるも、トップ DF にパスワークを遮断され流れをつかめず、東京都の 10 点リードで前半を折り返した。

後半、大分県は 5：1DF で東京都のリズムを崩しにかかるが、トップディフェンスの裏側を東京都伊藤に上手く利用され点差を広げられてしまう。これ以上引き離されたくない大分県は 12 分にタイムアウトを要求。直後、大分県は高橋のポストシュートで反撃をする。残り時間 15 分になり、大分県はようやく 4:2DF を攻略し、一進一退の攻防を繰り広げたが、最後までスピードある東京都の OF を止めることができずに敗れた。東京都はメンバーを変えながらも 60 分を通して多彩な OF と堅い守りで決勝進出決勝進出を決めた。

## ◆ 3 位決定戦：大分県　21（13-8、8-8）16　三重県

少年女子 3 位決定戦決定戦は，昨日福岡県と激戦を演じた三重県と，東京都に敗れた大分県の対戦となった。三重県が南川のサイドシュートで先制する。対する大分県後藤の速攻 2 連取で反撃する。その後，お互い点を取りあうが，三重県が退場者を出し，流れが大分県に傾く。髙橋のミドルシュートやカットイン，清水のサイドシュートで 3 点差にする。そこからも大分県のスピードある攻撃は止まらず，18 分には 5 対 10 と点差が開く。三重県も粘りのあるディフェンスからの速攻や，ポストプレーで得点を重ねるが，大分県のディフェンスを崩しきれず，8 対 13 で大分県がリードで前半が終了した。

後半は，三重県がミドルシュートやポストシュートュートで得点する。さらに伊東のサイドシュート，森田のミドルシュートも決まり，10 分に 12 対 14 と 2 点差に迫る。守っては GK 加藤が好セーブを連発し，流れを引き寄せる。今谷の速攻も決まり，16 分には 15 対 16 と 1 点差になって，大分県がタイムアウトを申請する。その後は守りあいが続き，21 分までは点差が動かない。均衡を破ったのは大分県。石川のミドルシュートで得点すると，三重県の 7mT を幡東がナイスセーブし，さらに得点を重ね，24 分には 15 対 19 と 4 点差をつける。そのまま流れは動かず，16 対 21 で大分県が勝利した。両者とも最後まで集中力を切らさない好ゲームとなった。

## ◆決勝：福岡県　27（13-10、7-10、2-1、1-2、3-1、1-0）24　東京都

茨城国体最終日、少年女子決勝は苦しみながらも勝負所を逃さずに勝ち上がってきた 3 冠を狙う福岡県と、インターハイのリベンジに燃え、順当に勝ち上がってきた東京都の戦いとなった。

お互い最初の DF を成功させたのち、福岡県は中園のミドルシュート、東京都は小宮山のディスタンスシュートが決まる。東京都は 7 人 OF で、福岡県は早いパス回しからの 1 対 1 で点の取り合いとなる。10 分過ぎから福岡県は GK 柿添の活躍から一時逆転をするも、東京都は平野のサイドシュートで同点に追いつく。終盤もお互い一歩も引かない戦いが続くが、福岡県は 7 人 OF を守り、GK 柿添が直接ゴールを決め 2 点差となる。残り 2 分半、東京都は小宮山のカットインシュートで再び 1 点差に迫ったところで、福岡県はタイムアウトを申請する。タイムアウト後、ポストプレーで東京都の退場を誘い、そこで得た 7mT を自ら中園が決める。残り時間 20 秒でまたしても中園がポストシュート決め 3 点差がついたところで前半終了。

後半開始 2 分、福岡県中園の退場する間、東京都は大谷のサイドシュートが決まり 1 点差に迫る。9 分、布施の速攻が

決まり東京都が同点に追いつく。さらに布施のサイドシュートも決まり、ついに逆転する。13 分、福岡県は中園のポストシュートが決まり同点に追いつく。その後、お互い集中した DF で 19 分に福岡県がタイムアウトをとるまでノーゴールの展開となった。直後、福岡県は中園のポストシュートでリードするが、東京都は 7 人攻撃から髙橋のミドルシュートで同点に追いつく。残り 40 秒、東京都が髙橋のミドルシュートでリードすると福岡県はタイムアウトをとる。残り 20 秒村上のミドルシュートで同点となり延長へ。

延長前半、中園の連続得点で福岡県が 1 点リードする。延長後半、東京都は篠﨑のサイドシュートで同点。そして第 2 延長までもつれ込む白熱した戦いとなった。

第 2 延長前半、7 人 OF を守った福岡県は GK 柿添が直接ゴール。対する東京も髙橋のミドルシュートで応戦。しかし、福岡県は中園・長谷川のミドルシュートが連続で決まり 2 点リードする。後半、チャンスを作る東京都だったか 7mT とノーマークを GK 柿添に阻まれ得点を奪うことができなかった。

写真提供：スポーツイベント社

## 【成年男子：戦評】

### ◆準決勝：埼玉県　24（14-10、10-13）23　佐賀県

埼玉県のスローオフで始まった成年男子準決勝は、佐賀県 GK 岩下の 4 本連続のナイスセーブから始まった。試合が動いたのは 3 分過ぎ、佐賀県三重のカットインが決まり先制するも、埼玉県も、すかさず小澤のポストシュートで同点とする。その後、両チーム GK のナイスセーブが続き、10 分を過ぎても 3 対 3 とスローペースな立ち上がりをみせた。20 分を過ぎて 8 対 8 の同点の場面から、埼玉県が小澤、玉川の速攻、安倍のミドルの 3 連取で一気に引き離すかに思われたが、佐賀県も食らいつき 14 対 10 で前半をおえた。

後半立ち上がり埼玉県は、小澤、安倍で 2 連取するも、佐賀県も田中大斗、田中大介で応戦。10 分埼玉県が退場者を出したところで、佐賀県田中大介のミドルが決まり 3 点差としたが、埼玉県も譲らない。粘る佐賀県は、18 分津山の 7mT が決まって 2 点差に迫る。その後、両チーム一進一退の攻防の攻防を続け 2 点差のまま終盤を迎える。28 分佐賀県梅本がポストシュートを決めて 1 点差。土壇場で勝利の行方は分からなくなったが、埼玉県が佐賀県の猛攻を凌ぎタイムアップ。24 対 23 の 1 点差で埼玉県が勝利し、3 連覇をかけた決勝の舞台へと駒を進めた。

### ◆準決勝：茨城県　27（14-12、13-13）25　宮城県

埼玉県の待つ決勝への残り 1 枚の切符を目指し、地元茨城県のスローオフで試合開始。開始早々に松岡のステップシュートで茨城県が先制、速攻から信太のミドルシュートで 2 連取に成功する。対する宮城県も濱口のミドルシュートなどで応戦し、一時は 6 対 5 と逆転する。中盤、茨城県は信太・小室・榎本の 3 連取で再逆転するも、宮城県も玉井のミドルシュート・カットインなど多彩な攻撃で食らいつく。終盤茨城県小室のポストプレーから宮城県に退場者が出て、元木の速

攻で茨城県が３点差とする。しかし、玉井のカットインで宮城県も１点を返し、前半は茨城県が２点をリードして終了した。

後半立ち上がり、宮城県が押し気味に試合を進めるが、松信を中心としたディフェンスと GK 木村の好セーブでここをしのぐ。榎本のカットインから茨城県は４連取し５点差とするも、中盤は両チームのポストプレーが光り、一進一退の攻防が続く。茨城県は、元木の負傷が響き、オフェンスのリズムが悪い時間帯があったが、小室のポストプレーで宮城県に退場者が出て、リードを４点に広げる。対する宮城県もタイムアウト後信太・松岡をマンツーマンでディフェンスし、川端のサイドシュートなどで点差を縮め、予断の許さない展開になる。ここで茨城県は松岡が２得点を決め、再び３点差にする。粘る宮城県も２点を連取し、残り 90 秒で１点差に。宮城県は最後のオフェンスで７人攻撃に出るが、茨城県がここをしのぎ、タイムアップと同時に河原のシュートが決まり、２点差で逃げ切った。

## ◆３位決定戦：宮城県　29（14-14、15-14）28　佐賀県

３位を賭けた佐賀県と宮城県の試合は、佐賀県のスローオフから始まった。宮城県が玉井のカットインで先制すると、楳木のポストシュート、堤のカットインと３連取する。対する佐賀県も津山の 7mT、三重の速攻で対抗するが、宮城県堤、濱口のミドルシュートが随所で決まり、徐々に点差が開いて 10 分で８対３と序盤は宮城県のペースで試合が進む。ここで佐賀県はタイムアウトを申請。その後佐賀県は三重のサイドシュート、津山の２本の 7mT 等で 18 分過ぎには２点差まで迫る。23 分に佐賀県の三重が退場し、流れが宮城県に傾くかと思われたが、佐賀県が踏ん張り、逆に終盤荒川のサイドシュート、岡松のリバウンドからのシュート、田中のカットインと３連取して追いつき、前半を 14 対 14 で折り返した。

後半３分佐賀県は三重のディスタンスシュートでこの試合初めてリードを奪う。しかし宮城県も堤のカットイン、濱口のポストシュート、河内のサイドシュートで３連取し、流れを渡さない。終盤まで１点を争うエキサイティングなゲーム展開となったが、29 分佐賀県の同点を賭けた 7mT を宮城県 GK 関口がシャットアウトし、29 対 28 で宮城県が勝利した。

## ◆決勝：埼玉県　38（19-11、19-14）25　茨城県

第 74 回いきいき茨城ゆめ国体、成年男子決勝は３連覇を目指す埼玉県と地元茨城県との顔合わせとなった。スローオフは埼玉県、いきなりのスカイプレーから始まったが、これを GK 木村がビッグセーブする。相手の速攻のカットから、榎本が決めて、茨城県が先制に成功する。松岡がカットインで続き、茨城県が２点を連取する。追う埼玉県も速攻、東長濱のカットインで応酬する。すぐさま茨城県が信太のカットインで反撃するも、埼玉県は速攻主体の攻撃で一気に４連取し、序盤の主導権を握った。元木を怪我で欠き、セットオフェンスで攻めきれない茨城県に対して、埼玉県は GK 東の好セーブからの小山の速攻、安倍のミドルシュートなどで６連取し突き放しにかかる。茨城県はタイムアウトを申請するが、埼玉県の勢いは止まらない。終盤、茨城県は 5:1 ディフェンスに変え、松岡のミドルシュート、森永のサイドシュート、千葉・

写真提供：スポーツイベント社

河原の速攻で点差を詰めるも、埼玉県が 19 対 11 でリードして前半を折り返した。

後半、茨城県は大学生主体のメンバーでスタートし、反撃に出る。序盤、河原の 2 得点などで点差を詰めるも、フィジカルで勝る埼玉県は着実に加点し、主導権を渡さない。中盤、埼玉県は森のポストシュート、安倍のサイドシュートなどで再び 6 連取し、20 分過ぎにはリードを 15 点まで広げる。埼玉県がリードを保ち、38 対 25 で栄冠を勝ち取った。

---

## 【成年女子：戦評】

### ◆準決勝：石川県　29（14-8、15-12）20　熊本県

熊本のスローオフでスタート。熊本吉田のミドルシュートで先取点、2 点目をあげる。石川田邉がサイドシュートで応酬する。さらに塩田が右 45 度からシュートを放ち同点に追いつく。熊本は吉田のミドルシュートが枠をとらえ、点数を重ねる。石川塩田がディフェンスの間を割り、前半 5 分で 3 対 3 の互角の試合。その後お互いディフェンスが機能し、膠着状態が続くが、熊本石井が冷静にセンターからシュートを放ち、点数を離しにかかる。石川永田がポストからシュートを決め、再び同点に。熊本岩淵も豪快なミドルシュートが決まる。石川の 7mT を熊本宮川が好セーブ。石川河田が速攻で得点。熊本も吉田が切れのあるフェイントで得点をあげ、14 分で 6 対 6 の同点。緊張感のある試合になる。熊本石井が速攻を決め、前半 17 分で 7 対 7 の同点。17 分熊本石井が退場。7 人攻撃で数的不利の打開を試みるが、石川はこのチャンスに秋山が冷静にサイドシュートを決める。さらにミスにつけこみ塩田が速攻で連続得点。さらに秋山が跳躍力を生かしサイドシュートをきめ 3 点差になる。21 分に熊本はタイムアウトを取り、流れを変えに来る。石川はワントップのディフェンスをしき、ミドル対策をする。さらに石川馬場が好セーブを見せ、石川ペースで試合が進む。熊本永田が痛恨の退場。熊本の苦しい展開が続く。石川は数的有利を生かし確実に点数を重ねる。6 点差で前半終了。後半開始直後石川塩田が得点。さらにワントップの裏を突いてポストを使って得点。熊本は 7 人攻撃を仕掛け、相手の退場を誘う。しかし石川馬場が好セーブ。数的不利を克服し、さらに得点を重ねる。しかし石川から退場者。熊本吉田が 7mT、石川から 2 人目の退場。後半 10 分でじりじりと点差を縮める。その後熊本吉田、石川塩田の両エースの打ち合いになる。熊本は後半 15 分にタイムアウトをとり打開を図るが、石川田邉が速攻、石川 GK 橋本、馬場の好セーブで流れを渡さない。さらに石川秋山がサイドシュートを決め後半 27 分で 10 点差。攻守で安定した石川が 29 対 20 で快勝した。

### ◆準決勝：茨城県　26（11-9、13-15、2-0、0-1）25　広島県

茨城県のスローオフで試合は開始した。先制は、茨城県グレイクレアのポストシュートであった。今ひとつ調子のでない広島県の立ち上がりをついた茨城県は上里、平野の連続得点により、たまらず広島県はタイムアウトを要求。立て直しを図りたい広島県は、眞継を中心とした攻撃で反撃にでる。そこに立ちはだかる茨城県 GK 中村のファインセーブもあり、なかなかリズムにのれない広島県。茨城県小林のロングシュートでこの試合初の 4 点差とする。差を縮めたい広島県は近藤の連続得点で反撃する。終盤、広島県の速攻による連続得点により 11 対 9 で茨城県がリードで折り返す。

後半、広島県は素早いボール回しから石川のサイドシュート眞継のカットインで流れを掴む。しかし、茨城県グレイクレアの力強いポストプレーが広島県の退場を誘い、7mT で再び流れを引き寄せる。茨城県のミスから失点により広島県は、16 分に初めて逆転に成功する。広島県の多彩な攻めにより勝負あったかに見えたが、茨城県の 7mT による得点により最後まで分からない展開となった。残り 7 秒で上里の同点ゴールが決まり延長へ。

延長前半は、2 連取した茨城がリードした。延長後半、茨城県の退場により、1 点差に縮める広島県。地元の応援を背にした茨城県が広島県の猛攻をしのぎ、決勝へと駒を進めた。

### ◆ 3 位決定戦：広島　16（6-7、10-8）15　熊本

熊本県と広島県の対決となった 3 位決定戦は熊本県のスローオフから始まった。先制は熊本県、吉田のシュートが決まる。広島県は三橋の連続得点ですぐさま逆転する。その後は広島県 GK 板野のファインセーブや熊本県の堅いディフェンスが得点を許さず、前半 17 分で 4 対 4 とロースコアで試合が進む。両チーム、決定機を作れず前半 7 対 6 で熊本県がリードで折り返す。お互いにディフェンスをどう崩し、シュートチャンスを作れるかが後半の鍵となりそうだ。

後半 2 分、5 分と熊本県に退場者が出る。このチャンスを逃さない広島県は松村 7mT、三橋らの連続得点で 10 対 7 とリードする。今度は後半 8 分、広島県に退場者が出る。すかさず熊本県は永田らの得点で 1 点差まで詰め寄る。広島県は

速いパス回しから三橋のサイドシュートや斗米のカットインで得点し、リードを守る。差を詰めたい熊本県は石井と吉田のコンビネーションから得点する。後半 23 分、熊本県福井の速攻が決まり 15 対 14 と熊本県が逆転する。広島県は角屋のシュートが決まり同点。残り 30 秒、ディフェンスをかいくぐり、角度のないところから三橋のサイドシュートが決まり逆転。最後は熊本県の猛攻を必死のディスタンスで防ぎ、広島県が 3 位を手にした。

両チームの一進一退の攻防は会場を沸かせ、3 位決定戦にふさわしい試合となった。

## ◆決勝：石川県　33（15-8、18-8）16　茨城県

石川県のスローオフで試合開始。石川県永田のポストシュートで先制。その後石川県佐々木の 7mT で連続得点。対する茨城県はサイドシュートで応酬するが、石川県 GK 馬場の攻守で得点できず。5 分グレイクレアのポストシュートで初得点。茨城県伊地知の速攻で流れをつかみかけるが、石川県塩田のシュートなどで引き離しにかかる。11 分 5 点差になったところで茨城はタイムアウトを取る。茨城はストロングポイントであるグレイクレアにボールを集め、食らいつく。石川は速攻、ポストシュートでチャンスを作るが、茨城 GK 宝田の好セーブにより 4 点差の状態が続く。しかし退場が出た茨城のディフェンスのスキを突き、石川県が得点を重ねる。15 対 8 で石川県がリードして前半は終了した。

後半は石川県佐々木のミドルシュート、永田の速攻で主導権を握る。後半 9 分茨城はタイムアウト。しかし石川秋山の速攻が決まり、14 分には 10 点差になる。茨城はセンターに相澤を起用して打開を図るが、石川の堅守に得点ができない苦しい展開。さらに石川河田のカットインで点数が離れる。17 分茨城は最後のタイムアウトで立て直しを図る。茨城は中村のディフェンスシュート、小林のカットインで得点を狙うが、石川のディフェンスは崩れない。33 対 16 で石川県の勝利。堅守速攻を貫いた石川県が堂々とした試合運びで見事に優勝した。敗れた茨城も学生主体ながら地元の声援を受け大健闘だった。

写真提供：スポーツイベント社

| 最終順位 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 種　別 | 優勝 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
| 成年男子 | 埼玉県 | 茨城県 | 宮城県 | 佐賀県 | 広島県，富山県，福岡県，千葉県 |
| 成年女子 | 石川県 | 茨城県 | 広島県 | 熊本県 | 香川県，鹿児島県，富山県，三重県 |
| 少年男子 | 香川県 | 大阪府 | 茨城県 | 山口県 | 京都府，宮城県，福井県，千葉県 |
| 少年女子 | 福岡県 | 東京都 | 大分県 | 三重県 | 千葉県，香川県，茨城県，神奈川県 |

asics
I MOVE ME™

# さらに軽く。

※当社、従来品(THH543)との比較

FLYTEFOAMを搭載し、軽量性も追求したスタビリティモデル

# BLAST FF

1071A002 / SIZE：25.0～29.0・30.0cm 本体価格：¥12,800＋税

001
BLACK/SHOCKING ORANGE

412
ILLUSION BLUE/HAZARD GREEN

600
SAMBA/BLACK

アシックスシューズのストライプデザインは株式会社アシックスの登録商標です。
本体価格は消費税抜きのメーカー希望小売価格です。 ■商品についてのお問い合わせ先：アシックスジャパン株式会社お客様相談室 0120-068-806 ■当社ホームページ asics.com からもお問い合わせをしていただけます。

# 2020東京オリンピック出場12カ国【女子】

## ５カ国が決定、残りは熊本世界選手権含め７枠

| | 日程 | 開催国 | 枠数 | 出場権獲得 |
|---|---|---|---|---|
| 開催国 | 2013 年 9 月 | ― | 1 | 日本 |
| 2019 世界選手権 | 2019 年 11 月 | 日本・熊本 | 1 | |
| 欧州選手権 | 2018 年 11 月 | フランス | 1 | フランス |
| アジア予選 | 2019 年 9 月 | 中国 | 1 | 韓国 |
| アフリカ選手権 | 2019 年 9 月 | セネガル | 1 | アンゴラ |
| パンアメリカン大会 | 2019 年 7 月 | ペルー | 1 | ブラジル |
| 世界最終予選 | 2020 年 3 月 | 未定 | 2 | |
| | | | | |
| | | 未定 | 2 | |
| | | | | |
| | | 未定 | 2 | |
| | | | | |
| | | 計 | 12 | |

## 女子オリンピックアジア予選

開催期間：2019 年 9 月 21 日～9 月 29 日
開 催 地：中国

| 順位 | | KOR | CHN | PRK | KAZ | HKG | THA | 数 | 勝 | 分 | 敗 | 総得点 | 総失点 | 得失点差 | 勝点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. | 韓国 (KOR) | | 32○20 | 39○21 | 29○25 | 41○13 | 40○14 | 5 | 5 | 0 | 0 | 181 | 93 | 88 | 10 |
| 2. | 中国 (CHN) | 20●32 | | 22●25 | 26○19 | 34○10 | 36○17 | 5 | 3 | 0 | 2 | 138 | 103 | 35 | 6 |
| 3. | 北朝鮮 (PRK) | 21●39 | 25○22 | | 22●24 | 38○14 | 36○16 | 5 | 3 | 0 | 2 | 142 | 115 | 27 | 6 |
| 4. | カザフスタン (KAZ) | 25●29 | 19●26 | 24○22 | | 30○16 | 35○17 | 5 | 3 | 0 | 2 | 133 | 110 | 23 | 6 |
| 5. | 香港 (HKG) | 13●41 | 10●34 | 14●38 | 16●30 | | 33○22 | 5 | 1 | 0 | 4 | 86 | 165 | -79 | 2 |
| 6. | タイ (THA) | 14●40 | 17●36 | 16●36 | 17●35 | 22●33 | | 5 | 0 | 0 | 5 | 86 | 180 | -94 | 0 |

韓国が優勝し、来年の東京 2020 オリンピックへの出場権を獲得

# 第27回日韓中ジュニア交流競技会

開催期間：2019年8月23日～8月29日
開 催 地：中国・湖南省長沙市
会　　場：長郡月亮島中学校

| No. | 役職 | 公認スポーツ指導者資格 | 氏名 | 性別 | 所属 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 総監督 | ハンドボールコーチ１ | 北中　弘規 | 男 | 石川県立金沢中央高校 |
| 2 | 監督（男子チーム） | ハンドボールコーチ３ | 平井　徳尚 | 男 | 大分県立大分雄城台高校 |
| 3 | 監督（女子チーム） | スポーツリーダー | 本田　眞吾 | 男 | 神奈川県立上鶴間高校 |
| 4 | コーチ（男子チーム） | ハンドボールコーチ３ | 疋田　雅巳 | 男 | 愛知県立天白高校 |
| 5 | コーチ（女子チーム） | ハンドボールコーチ１ | 中山　学 | 男 | 岡山県立倉敷青陵高校 |

男子

| No. | 氏名 | 所属 | |
|---|---|---|---|
| 6 | 今井　寛人 | 大阪体育大学浪商高校 | ３年 |
| 7 | 坂　直哉 | 富山県立氷見高校 | ３年 |
| 8 | 藤坂　尚輝 | 北陸高校 | ３年 |
| 9 | 中村　京介 | 高岡向陵高校 | ３年 |
| 10 | 村藤　空吾 | 高岡向陵高校 | ３年 |
| 11 | 朝野　暉英 | 富山県立氷見高校 | ３年 |
| 12 | 谷口　尊 | 北陸高校 | ３年 |
| 13 | 金岡　宙斗 | 高岡向陵高校 | ３年 |
| 14 | ピサノ　ライアン海夏人堀尾 | 中部大学春日丘高校 | ３年 |
| 15 | 小畠　来生 | 富山県立氷見高校 | ３年 |
| 16 | 武良　悠希 | 北陸高校 | ３年 |
| 17 | 西原　雄聖 | 学校法人興南学園興南高校 | ３年 |
| 18 | 池原　大貴 | 桃山学院高校 | ３年 |
| 19 | 伊禮　雅太 | 学校法人興南学園興南高校 | ３年 |

女子

| No. | 氏名 | 所属 | |
|---|---|---|---|
| 20 | 上嶋　亜樹 | 小松市立高校 | ３年 |
| 21 | 小林　愛 | 小松市立高校 | ３年 |
| 22 | 南川　満帆 | 三重県立四日市商業高校 | ３年 |
| 23 | 清水　愛果 | 大分高校 | ３年 |
| 24 | 喜納　歩菜 | 沖縄県立那覇西高校 | ３年 |
| 25 | 後藤　ほたる | 大分高校 | ３年 |
| 26 | 井上　ちさと | 名古屋経済大学市邨高校 | ３年 |
| 27 | 高橋　舞 | 大分高校 | ３年 |
| 28 | 高橋　唯 | 大分高校 | ３年 |
| 29 | 平田　萌華 | 明光学園高校 | ３年 |
| 30 | 小野田　夢実 | 名古屋経済大学市邨高校 | ３年 |
| 31 | 秋吉　七海 | 大同大学大同高校 | ３年 |
| 32 | 川島　芽依 | 鹿児島県立鹿児島南高校 | ３年 |
| 33 | 山脇　みなみ | 明光学園高校 | ３年 |

総監督　北中 弘規（全国高体連ハンドボール専門部委員長）

# 第27回日・韓・中ジュニア交流競技会参加報告

本競技会は、1993 年日本の福島県で第 1 回大会が開催され、日本、韓国、中国の三カ国が持ち回りで実施しているもので、今回で 27 回目となりました。今年度は中国・湖南省・長沙市において 8 月 23 日（金）から 29 日（木）まで開催されました。長沙市は湖南省の首都であり、人口 815 万人の中心都市であります。中国の優れた旅行都市であり、空気が清潔な日が年間 278 日と国連の「世界住み心地よい環境賞」に入賞。11 年連続中国国内で最も幸福感のある都市に選ばれております。日本選手団は 10 競技に 2266 名、ハンドボール競技は全国から選抜した選手 28 名、全国高体連専門部から役員 5 名が参加しました。

8 月 22 日（木）品川プリンスホテルに集合しました。17 時から結団式・指導者ミーティングが行われ、日本選手団としての心得、国際交流の意義、生活文化理解、積極的な交流を確認しました。全体日程、支給物品受取並びに明日からの行動、注意事項等についての連絡がありました。

8 月 23 日（金）6:00 ホテルを出発して羽田空港から 9:20 発【JL081 便】にて 12:25 上海国際空港に到着しました。トランジットの時間が長く、上海 17：10 発【FM9361 便】にて 18：50 長沙黄香空港に到着しました。50 分のバス移動から 20：30 宿舎【華雅国際大酒店（バヤインターナショナルホテル)】に到着し、夕食を取りました。日本とは 1 時間遅い時差がありました。

24 日（土）割当練習は 10：00 ～ 11：30 の予定が変更となり、50 分バス移動をして、男女合同で 10：00 ～ 11：00 にて大会会場となった長郡月亮島体育館（エアコンの効くスポーツコート）で実施する事ができました。14：30 からの監督・審判会議では、翌日からの試合方法・ユニフォーム等の確認を行いました。

開会式が行われる【長沙人民会堂】へは、パトカー先導で幹線道を封鎖してのバス移動でした。国賓級の VIP 待遇には驚くばかりでありました。会堂への入場は、1 人 1 人金属探知機を当てられ、バックを開いてチェックしたのには狼狽しました。16：00 から総合開会式が開催されました。長沙歌舞劇院によるマルチメディアダンスで「序幕」、第一章から第三章まで華雅芸術学校・歌舞劇院民楽器・鼓舞民芸団による「歓迎の舞・歌」は異国文化を感じられるステージで素晴らしく感銘を受けました。オープニングセレモニー後、歓迎の挨拶があり、旗手と共に各国が入場を行い、日本選手団団長森岡裕策氏および各国団長の挨拶があり閉会しました。パトカーの先導でホテルへ移動して、19：00 からの夕食後ミーティングを行い明日からの試合に備えました。

25 日（日）からの試合は、日本・韓国（男子：全北第一、女子：一信女子高等学校）・中国（男子：国家青年男手、女子：江蘇青年女子手）・長沙（男女：長沙市体校）の総当たりで行われました。

大会ではとても残念なことがありました。私が携わって 7 年でありますが、初めて怪我人を出してしまった事であります。危険を感じさせる荒いディフェンスプレーにより、左手親指第一末節骨骨折であります。国体も控え、大切な生徒を預かりながら、残念で仕方がありません。申し訳ございません。

試合結果詳細につきましては、監督・コーチ・選手から別途報告があるので省略します。

日本選抜チームはその名の通り、全国から選りすぐった個性豊かな人材の集合体です。選手一人一人は高いプライドを有している一方、リーダーシップ、コミュニケーションなどに不安を抱きながらも練習や試合に臨み、共同生活を営む事になります。そうした意味からも、短期即製チームでコンビネーションの精度を上げ、限られた短い時間の中で戦術や個人の役割等を確認させ、同じ目標に向かって戦うチームとしての大切さを指導して頂いた、男子監督平井徳尚、疋田雅己コーチ、女子本田眞吾監督・中山学コーチに敬意を表すとともに、選手の皆さんに深く感謝しています。また、選手たちの順応力の高さと共に、男子主将：興南高校　伊禮雅太君、女子主将：大分高校　後藤ほたるさんには、スタッフとのパイプ役となり明るさを前面に出してチームを盛り上げるキャプテンシーを感じました。

今回も、韓国の技術の高さ、体幹の強さ、そして何よりも勝利への執念には怖さを感じると共に、中国大型化への対応の必要性を痛感しました。そして、今後も日本は世界に向け、身体の大きさ・強さとスピード、そしてアウェーの笛にも屈しない精神的な強さと順応性も必要だと改めて感じさせられました。また、危険を感じさせる吹笛は、試合をボイコット寸前まで考えさせられたもので、残念極まりない思いもありました。

27 日（火）競技会 3 戦を終えホテルで夕食後、コンベンションホールにおきまして『フレンドシップ交流会』･『閉会式』が開催されました。中国のブレイクダンスチームによる開幕パフォーマンスの後、3 ヶ国選手団代表による歌・ダンスパフォーマンスなどが披露され交流会を盛り上げました。日本からは女子バスケットボール、女子バドミントンチームが歌とダンスを披露して会場を盛り上げてくれました。

28 日（水）午前：パトカーの先導での文化探訪（嶽麓書院、橘子州、毛澤東青年像、文化遺産展示館）を行い、午後は、大型スーパーでの買い物ツアーでした。

29 日（木）5：15 に荷物をロビーに出して朝食。ホテルを 7:00 に出発し 10：25 長沙黄香空港発、12：25 上海空港に到着しました。3 時間余りのトランジットをして 16：05 上海空港発にて羽田空港に 20：00 着で帰国しました。羽田空港で解団式を行いました。帰路につく事ができる女子 3 名を除き、スタッフ 4 名･選手 25 名は【ホテルビスタ蒲田東京】に宿泊し、翌日それぞれが帰路に就きました。

大会の参加に際しては、昨年まで大阪で行っていました選考会を京都府太陽が丘体育館に変更して行いました。京都での選考会で協力頂いた京都府高体連の先生方、並びに、選手を派遣頂いた各校の監督・保護者の方々、事前合宿を行わせて頂いた NTC の河上千秋さん。佼成学園女子をはじめ、NTC まで来て頂き胸をお借りした早稲田・法政大学男子チーム、日体大・大同大女子チームには多大なるご支援とご協力を賜りました。関係機関の皆様に心から感謝を申し上げます。

今後とも、全国高体連活動へのご理解とご支援をお願い致しまして大会参加報告と致します。

男子監督　平井 徳尚（大分雄城台高校）

# 第27回日・韓・中ジュニア交流競技会

第 27 回日韓中ジュニア交流競技会の選手選考会を平成 31 年 4 月 13 日（土）～ 14 日（日）京都府立山城総合運動公園体育館で実施しました。全国各ブロックより推薦を受けた男子 44 名が参加し、京都府高体連専門部の先生方のご協力の下、面接・基本練習・紅白ゲームを通して各ポジションでの技能、取り組みの姿勢等を考慮し、選考委員の北中弘規（金沢中央）、岩本明（浦和学院）、疋田雅己（天白）、平井徳尚（大分雄城台）の 4 名で代表選手 14 名を選考しました。ご協力いただきました京都府高体連の皆様方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

大会までの準備として、8 月 20 日（火）～ 22 日（木）の 3 日間、味の素トレーニングセンターにて強化練習を実施しました。21 日（水）早稲田大学・22 日（木）法政大学の学生の胸を借りて、各ポジションの確認やゲーム感を養うことを意識して練習試合をしました。各大学の学生にはわざわざ足を運んで頂き、秋リーグ直前にもかかわらず快く対応して頂き感謝申し上げます。この練習ゲームで、選手たちも弾みをつけることができました。あとは、韓国対策・中国独特のアウェーの笛が予想されていたので、その部分を意識して大会に臨みました。

## 8 月 25 日（日）　日本　24（10 － 15、14 － 13）28　韓国

【得点】伊禮 6、小畠 5、朝野 5、谷口 4、藤坂 2、金岡 1、ピサノ 1

初戦の相手は韓国。昨年度より力のあるチームであった。DF を 6：0 ディフェンス主体にして、ゲーム展開によってシステムを変えることを確認して臨んだ。初戦で、少し浮き足立った雰囲気もあったが小畠のミドルなどで 3 対 1 からスタートした。韓国が重量ポストをとセンターを起点として一進一退の攻防が続いた。しかしシュートミス・ルーズボール・リバウンドミスから逆速攻での 4 連取・2 連取され失点が続き、前半を終了した。

後半に入り、ルーズボール・リバウンドの徹底、DF でのハードコンタクト、OF ではシュートまではいけていたので決定率を上げることの 3 点を徹底した。GK 西原（興南）が好セーブを連発して失点して、小畠（氷見）・ピサノ（春日丘）を中心としたディフェンスで粘り強く守って速攻、セット攻撃でも得点を重ね、後半 10 分過ぎに 1 点差まで追い付き、拮抗した攻防を繰り返し残り 4 分まで 1 点差までいったが、最後は力尽きて悔しさが残る敗戦となった。

## 8 月 26 日（月）　日本　29（15 － 9、14 － 10）19　長沙

【得点】谷口 7、小畠・伊禮・藤坂・村藤 3、ピサノ・朝野・武良・坂 2、中村・池原 1

地元選抜の長沙戦。午前中の韓国 vs 中国戦が目に余るジャッジであり、韓国スタッフからも「負傷者に注意すべき」とのアドバイスをもらってからのスタートとなった。翌日の中国戦を見据えアウェーのジャッジ対策と、DF6-0 でハードコンタクト、ポストはがしなど徹底事項を明確してゲームに臨んだ。得点を重ねるが、DF リバウンドでの失点などでリズムに乗れない。中盤以降、長沙もミスからの逆速攻や 1 対 1 からのカットインシュートなどで得点を積み重ねてくる。しかし村藤（高岡向陵）のサイドシュートや速攻で日本も得点を伸ばす。目に余るアウェーのジャッジにも負けずに選手たちは粘って DF に集中し、後半中盤から速攻でのコンビが取れるようになり、得点を広げて今大会初勝利を収めた。しかし、負傷者が出ないことを最大限注意していたが、終了間際に相手選手の過度のラフプレーにより日本チームに骨折者が出てしまった。

## 8 月 27 日（火）　日本　29（14 － 13、15 － 18）31　中国

【得点】坂 7、金岡 6、藤坂 4、小畠・伊禮 3、朝野 2、池原・武良・村藤・谷口 1

2 位をかけた一戦。様々なアウェーのジャッジ対策を想定し、さらに前日の負傷者（骨折）の分も戦うとモチ

ベーションを強く持ちゲームに臨んだ。中国も地元開催であり強い気持ちを最初からぶつけてきた。個人能力が高く、左利きのミドル・ロングに対してハードコンタクト、ポストに落ちたら密集、リバウンドを必ず徹底するという約束事で対応した。昨日以上のアウェーのジャッジでフラストレーションが溜まる中、今井（大体大浪商）が好セーブを連発してチームに活気を与え、坂のサイド・速攻などで得点を重ねて前半リードで終了。

後半、リバウンドの徹底と、DF を再確認、さらにレフェリーにフラストレーションを溜めずに自分たちのやるべきことを徹底して残り 5 分 5 点リードまで持っていくことを約束事としてスタートした。しかし中国の狙い通り DF で「退場」を出してしまい、ライン際を全て 7mT と判定され、一進一退の苦しい状況となり、最終的には 2 点差負けと悔しい敗戦となった。この敗戦は指導者として責任を感じており大変申し訳なく思っている。

最後になりますが、この日韓中・高校日本代表での経験が今後の彼らのハンドボール人生に大きな財産となることを願うと共に、次のステップでもより一層努力し、益々精進して、将来オリンピック等世界の舞台で活躍してくれることを期待しています。

男子チーム主将　**伊禮　雅太**（興南高校）

## 第27回日韓中ジュニア交流競技大会を振り返って

今回の試合結果は、1 勝 2 敗の 3 位の結果でした。なぜ韓国、中国に勝てなかったのか。私が、この競技会を通して感じたことを報告します。

まず、コミュニケーションの重要性です。試合において、特にチームの状況が悪い時や、ここ一本決めるべき時や絶対に守るべき時に決してミスがあってはいけません。そういう場面が何度かありましたが、コミュニケーションをより早くより的確に取っていれば、より状況を打破できたのではないかと思います。

次に、食の環境です。国外での試合では、食文化の違いから栄養バランスが偏ってしまいがちです。今回は選手みんながそれを事前に考慮した上で、補食等の準備をしていたので、試合に支障はありませんでした。どこへ行っても、どのような環境でも、ベストに近い状態で試合に挑めるよう準備する事はとても大切な事だと感じました。

そして、体格の違いです。私たちは、中国や韓国の選手より全体的に体の線が細い為、ディフェンスでの当たりの弱さやポストプレーで押し込まれる場面もありました。しかし一方で、その体格の違いを利用し、スピードのあるパス回しや速攻は通用することがわかりました。

このように、コミュニケーションの重要性、食事、体格、技術、これらは試合に挑むチームの一選手として、どれも欠かす事は出来ません。また、海外でプレーをしている選手や代表として戦い活躍する選手は、私自身が今回の体験を通して、とても過酷だと感じました。私も同じカテゴリーのどこの国と対戦しても戦えるように、

常に準備をし、挑戦できる自分作りをしっかりとやっていきたいと思います。それが、代表としての自覚と責任、そして最高のパフォーマンスにつながると思います。

最後に、貴重な経験、機会を与えて下さった公益財団法人日本スポーツ協会の皆さま、指導して下さったスタッフ、一緒にプレーしたチームメイト、それに関わる全ての方にとても感謝しています。また、次のステージでこの経験を生かせるように頑張ります。ありがとうございました。

男子チーム副主将　**金岡 宙斗**（高岡向陵高校）

## 第27回日韓中ジュニア交流競技大会を振り返って

今回の日韓中ジュニア交流競技会で私は副キャプテンという形で参加させていただきました。このメンバーだからこその楽しさや課題、現地での生活環境の違いからなる問題や国際交流の大切さなど様々なことを学びました。

まずはじめに、短い期間で一緒に過ごしてきた仲間とのことです。最初は関わったことのある人もいたけれど、少し不安で控えめになってしまって自分を出せずにいましたが、練習中にコミュニケーションを取っていくことでチームのみんなと打ち解けることができました。しかし、いざ練習試合をしてみると、パスやキャッチミス、ルーズボールの処理など細かいミスが目立ち連携が取れていませんでした。

そんな中でも大切になったのがコミュニケーションです。自分の思いを味方に伝えることでどう動いてほしいのかを理解し合うことができ連携も取れてオフェンスではシュートまで持っていくことができてきました。そしていざ中国で試合をしてみると１番強く感じたことが体格の差で、ディフェンスで相手に押し込まれることが多くありました。それでも全員が、正面で当たり負けしないという気持ちで全力でディフェンスをしました。結果としては１勝２敗で３位でしたが学ぶことは多くあり試合や練習以外でのチームのみんなとの過ごした時間は最高に楽しく印象に残る大会になりました。

次に、現地での生活についてです。現地に着いてご飯を食べる時に日本と料理と違い、少し口に合わずバランスが悪くなってしまいました。しかし食べていくうちに口に合うようになり足りないものは捕食で栄養をとるなど準備をしてきて本当に良かったです。

また、国際交流を通して他国の選手とのコミュニケーションをとることの大切さ、また、スポーツを通して深めることができた友好関係はこの先の人生に必ず役に立つと思います。最後に関係者のみなさんに出会えたことに感謝致します。

OSAKI

限られた資源だから、有意義に使っていきたい。
命あるものたちが共存する地球だから、
快適な環境を守っていきたい。
計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、
ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、
つねに技術革新をこころがけています。

ECOLOGY

大崎電気工業株式会社
本社　〒141-8646　東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア　TEL.(03)3443-7171(代表)

女子チーム監督　本田 眞吾（神奈川県立上鶴間高等学校）

## 自分の力、チームの力を発揮するために必要なこと

今年度の大会は中国 湖南省 長沙市での開催でした。長沙市は、中国の中でも十年連続で「中国の最も幸せな都市」と評価されたところです。自然環境もよく PM2.5 の心配はそれほどでもありませんでした。

今大会に際して 4 月 13 日（土）、14 日（日）に京都府立山城総合運動公園体育館にて選手選考会を実施しました。全国各地から女子 30 名の参加をいただき、初日は、面接、基本技能、ゲーム、2 日目はゲーム中心を行い、14 名を選考させていただきました。今年度は、国体ブロック予選会と日程が重なり、関東ブロックをはじめ、選考会に参加できないブロックが多くある状況でした。しかしながら、選考に当たりご理解、ご協力いただき、選手を派遣していただきました各学校の顧問の先生方、また、選考会の開催を受け入れていただき、ご協力いただいた京都府高体連専門部の皆さん、そして、選考にあたられた選考委員の先生方には、厚くお礼申しあげます。

また、本年度も直前の合宿をナショナルトレーニングセンター（NTC）において行うことができました。オリンピックの 1 年前で NTC での合宿は難しいと考えていましたが、ハンドボール担当河上さん、芳村さんのご協力によりパラリンピックの選手のための宿泊施設を準備して頂き、行うことができました。ありがとうございました。20 日（火）から 22 日（木）の 2 泊 3 日、専用施設での合宿では、バスケットボール、バレーボール、ウエイトリフティング等の日本代表と共存することで選手の意識も高められ、練習は基より食事、生活全般まで、日本代表としての勉強をさせていただきました。

合宿では、佼成学園女子高等学校、日本体育大学、大同大学の協力を得て、全国からの選抜された選手を個人のポジションとチームカラーを最優先に考え、ゲーム中心の練習を組みチーム作りを行いました。20 日（火）午後 12：30 集合 13：00 から開講式とともに説明（NTC 利用）、終了後練習開始。基本練習の後に佼成学園女子高等学校とゲームを行ないダウンして終了。21 日（水）全日、日本体育大学、大同大学との練習試合。22 日（木）8：30 からトレーニングルームで体脂肪測定、9：45 から練習。大会に向けての個人、チーム練習を行いました。課題は、選手の DF・OF における意思疎通の形成でしたが、やはり時間が必要でした。まずは、生活行動を共にし、それぞれを知ることで、この大会の期間中に合わせて行く事を目標として、NTC から品川プリンスホテルへ移動しました。

佼成学園女子の石川先生、安藤先生、日本体育大学の辻先生、髙橋コーチ、大同大学の齊藤先生、ご協力ありがとうございました。

今大会の参加チームは、日本、中国、韓国、長沙の 4 チームで、総当りのリーグ戦となります。

大会前、日韓情勢の不安定な中、試合が危ぶまれるような情報もありましたが、韓国との試合は無事行なわれしました。韓国（女子）は一信女子高等学校（韓国 No.1）。中国は江蘇青年女手（単独チーム）で、開催地は長沙市体校の参加でした。各チームの情報は特に無く、学校名が分かったくらいでした。

### 8月25日(日)9:30～:長郡月亮島中学校体育館　日本　22（10－12、12－11）23　韓国

先発は、GK 上嶋、小林、南川、喜納、後藤、高橋舞、高橋唯布陣で入りました。立ち上がりから日本が積極的に攻め 5 分で 3 対 1 とリード。しかしながら、10 分で 5 対 5 となり 15 分以降得点は無く、23 分で 5 対 10 となりました。前半は 28 分 30 秒以降、DF が機能し韓国の OF ミスに乗じて 10 対 12 で折り返しました。

後半に入ると怪我で復帰が遅れていた清水を投入し、OF のリズムを変えるべく速い展開に持ち込みました。1 点差を争う展開となりましたが、残り 3 分で 22 対 22 の同点から、28 分 40 秒に 23 点目を決められ、その後はお互い決定力無く 1 点差で終了となりました。

この試合の反省としては、韓国の情報が無かったことは仕方が無いものの、お互いが初戦ということで、開始 5 分から 10 分の間に相手の DF・OF の特徴を考察し、作戦を練りながらの試合となった点、後半韓国と互角の戦いをしながらも、DF で我慢し速攻を組み立て得点に結び付けられなかったところ、肝心なところでのミスが多くまた、シュート確率の差が出た試合であったところ等が挙げられます。シュートの決定力、プレーの際でのメンタルの強さ等が今後の課題となりました。

**8月26日(月)14:00～:長郡月亮島中学校体育館**　**日本　33（16－7、17－8）15　長沙**

第２戦の相手は地元長沙のチームで、昨日の韓国代表とは力の差があることはわかっていました。前日、夜のミーティングで、韓国戦の敗戦をチームとして反省し、長沙戦の戦い方を確認し試合に臨みました。

試合は、GK 秋吉、井上、平田、小野田、川島、山脇、高橋唯と韓国戦のメンバーから大きく入れ替えました。開始直後から得点を重ね 10 分で８対１とリード、そこからは長沙も徐々に調子を上げ前半は 16 対７で後半戦へ。後半も日本が着実に得点を重ね 33 対 15 で勝利しました。翌日最終戦、対中国。そのための良い戦いができたようです。ただ、雰囲気を大切にしながらもしっかりと締めるところは締めて、明日に備えることを確認して終了しました。

**8月27日(火)14:00～:長郡月亮島中学校体育館**　**日本　31（15－17、16－15）32　中国**

いよいよ最終戦、中国との対戦となりました。昨日の長沙戦の良いイメージで臨むこと、この中国戦で自分たちの力を表現すること、全員で勝ちに行くことを確認し、試合に向かいました。

試合は、GK 上嶋、小林、南川、喜納、後藤、高橋舞、高橋唯の７人でスタートしました。喜納のシュートで始まったものの、点の取り合いとなり前半は中国の２点リードで折り返しました。中国の OF センター No.21 の呉のミドルシュートを連続して決められる等 DF 面での不安が後半に残りました。

後半もリードされたまま経過し、15 分で 22 対 26 の４点差、残り５分で 28 対 32 の４点差変わらず。残り２分で１点差まで詰めるも 31 対 32 の１点差で惜敗しました。

どのような状況でも強い気持ちで自分の力を出し、チームの力となってシュートを決めるメンタルが本当に必要であると実感し考えました。

今大会の結果は、韓国３勝、中国２勝１敗、日本１勝２敗、長沙３敗という結果で終了しました。

毎年のごとく選考会において、その年の全国の高校生を推薦いただき、この大会へ協力していただき、心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

女子チーム主将　**後藤 ほたる**（大分高校）

## 第27回日韓中ジュニア交流競技大会を振り返って

８月 20 日から 29 日の 10 日間、日中韓の国際大会に参加させて頂きました。３日間ちょっとという限られた時間の中でチームをつくりあげました。

初戦は韓国代表と試合をしました。実際に戦ってみると思っていたよりもフェイントが早く、フェイントをした後の動きも上手かったです。なによりサイドシュートの決定率が日本とは違いました。シーソーゲームをしている中で、最後に点を取られてしまい１点差で負けてしまいました。２試合目は、開催地代表の長沙と試合をしました。自分たちよりはるかに体が大きく少し怖い部分もありましたが、自分たちの持ち味である守って速攻を最大限に活かし、大差で勝つことが出来ました。私たちにとってのこのチームでできる最後の試合は中国代表とでした。絶対に勝って終わろうと前の日の夜のミーティングからしっかり対策を練り、試合に臨みました。日本にはないプレースタイルと体格。完全アウェーの中での試合でした。前半、相手の大きさとフィジカルになかなか対応することが出来ず、得意とするプレーで失点を重ね、苦しい時間帯が続きました。後半になり、自分たちのディフェンスからの速攻でいい流れを作れた場面はありましたが、追いつくことはできず、この試合も１点差で負けてしまいました。

たった 10 日間という短期間だけのチームでしたが、顔も名前も完璧にはわからない中、１からチームをつくり、国を超えた選手の人達とここまでのゲームをすることが出来ました。やっぱり勝てなかったのはとても悔しかったです。そしてなにより、１点差の重みというものを今回の大会を通して１番考えさせられました。試合の中での後悔が残る部分、自分がキャプテンとして力不足だった部分、全てが終わってみると思うことは沢山ありますが、この 14 人と、先生方とハンドボールが出来たことは私にとって最高の宝物となりました。これからはさらに上のステージへあがれるよう頑張っていきます。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

女子チーム副主将　**秋吉 七海**（大同大大同高校）

# 第27回日韓中ジュニア交流競技大会を振り返って

8月20日から味の素ナショナルトレーニングセンターで2泊3日強化合宿をさせて頂き、中国で行われた日韓中ジュニア交流競技会に参加させて頂きました。3日しかない練習期間は思っていたよりも短く、不安要素が多い中私達は大会を迎えました。

初戦は韓国でした。結果は22対23と1点差で負けてしまいました。韓国の連携プレーを止めることが出来ず、取って取られての試合でした。韓国寄りの笛も多く悔しさが多く残る試合でした。二試合目は開催地の長沙とやりました。アップから1人1人の顔つきが良く、絶対勝つという思いが出ていました。試合開始から流れを掴み、日本の持ち味であるディフェンスから速攻でたくさん点を取ることができ、33対15で勝ち切ることができました。その日の夜のミーティングでは明日が最後の試合、今までで1番いい試合をしよう、2位をとって日本に帰ろうと全員が1つの目標に向かっていました。迎えた最終試合は中国とでした。本当に同い年なのかと思うくらい体格差がありました。それでも私達は強気で試合に臨みました。前半から自分たちの力を出して相手に流れがいっても食らいついていきました。けれど中国の選手はフェイントの1歩が大きく、体の大きいポストにボールを放り込まれることが何回もありました。結果は31対32と1点差で負けてしまいました。しかし粘り強いプレーを最後まで出来たことはこの試合で私達の最大の収穫でした。

この日韓中ジュニア交流競技会を通して、最初は個人の集まりでしたが、日を重ね練習や試合を経験していく度に意思疎通のとれた1つのチームになっていきました。このメンバーで戦えて、14人全員が無事に怪我なく終わることができて本当に良かったです。これからはそれぞれの場所で頑張ります。

最後にこのような貴重な経験をさせて頂けたのも先生方をはじめ日本チームをサポートしてくださった方々のお力添えだと思います。本当にありがとうございました。

# ナショナル・トレーニング・アカデミー（NTA）

# 欧州育成合宿（男子・女子）

期日：令和元年８月 25 日（日）～９月２日（月）
場所：ハンガリー

**NTA（ナショナルトレーニングアカデミー）副委員長　松永 康宏**

NTA（ナショナルトレーニングアカデミー）の活動報告をさせていただきます。今年も、NTA の活動の一つである欧州遠征に、スタッフ６名、選手（男子 16 名、女子 15 名）にて活動を行いました。昨年はデンマークに、今年はヨーロッパの更なる経験の場として、女子ジュニアや女子ユースなどの若い世代で、世界大会やヨーロッパ選手権を優勝しているハンガリーに遠征に行ってきました。

国立ハンドボールアカデミー（NEKA）という国家経営の組織に７日間お世話になり、選手が使っている寮や食堂、体育館、トレーニングルームなどの施設で一緒に生活をしました。そこには、全国から志願して来た選手の中から合格した、各年代（13 ～ 19 歳）の選手が親元を離れ男女共に生活していました。そのような環境で練習ゲームだけでなく、フィジカルトレーニングやゴールキーパートレーニングなど現地のスタッフに教えてもらえる機会があったことも素晴らしい経験になりました。ハンガリーの選手と一緒に食事や練習、試合などに臨む中で、選手たちの自立した姿を見られたことは、日本の選手にとっては良い刺激になりました。自分の目標を達成するために、自分の弱点と向き合うことが大切だと、NEKA のスタッフはセミナーの中で言っていました。また、指導者も指導をするうえでの視点や役割というものとアカデミーの運営方法を学んできました。今後、選手一人一人の課題を整理して、スタッフが連携を図って、個人に合った指導内容の作成なども検討していく必要があると思いました。

今後とも、NTA の活動への応援、支援賜りますようよろしくお願いいたします。

## NTA2019 欧州遠征 in Hungary【NTA 活動方針】

ハンドボール選手としての個人技能・能力のレベルアップを図り、世界に通ずる選手としてのスキル教育を行うとともに、将来に亘り日本を代表し社会で活躍できる人材としての育成を行う。更には人間形成の支援と競技力向上の両立を図る。特に的確な判断ができる選手の育成に努め、正しい動きを早期に習得させる場とする。また強さを身につけるために、体力 トレーニングも重点項目として体格形成を行う。

NTA 活動方針に基づき本事業は、選手の個人技能・能力のレベルアップであり、勝敗のみに着手しないトレーニングを行う。身体の基本的な動きづくり、フィジカルトレーニング、コーディネーショントレーニングなどプロコーチによる専門的指導を行う。また、同世代の選手との練習試合を行い、トップレベルのハンドボールを体感し今後の課題を明確にさせる。さらに、プロ選手との交流、ハンガリーの生活文化に触れることでより選手としての知見を広める。

スタッフは練習内容の本質を学ぶことや、現地のプロコーチからのセミナーを受講し、コーチとしての資質を高めると共に、ハンガリーのアカデミーの組織を学び、今後の日本のNTAのあり方や方向性を見直した上で、全体最適を図っていく。

好評発売中

ハンドボールスキルアップシリーズ
**目からウロコのDF戦術**
スポーツイベント・ハンドボール編集部 編著
B5判　188ページ　1,800円+税　発行元 グローバル教育出版

バックプレーヤー、サイドプレーヤー、ポストプレーヤー。ポジションごとに求められるものは大きく変わります。コートプレーヤーの3ポジションについて、本書ではそれぞれの役割、求められる能力などをわかりやすく解説しています。

既刊

目からウロコのＤＦ戦術
1,800円+税

株式会社スポーツイベント TEL：03-3253-5941　ご注文はオンラインショップから→http://sportsevent.shop-pro.jp/

## 男子代表　鴻巣 開輝

今回のハンガリー遠征では試合を３回行った。僕個人としては、１回目の試合から最後の試合にいくにつれ、成長することができたと思う。具体的にいうと、初戦では選手間でのコミュニケーションをとることができていなく、DF面に多くの課題が残るゲーム内容になったしまった。しかし、試合を重ねるにつれ、選手間での意思疎通をすることができるようになり、DF では、二枚目がアグレッシブにクロスアタックにいく、一線ディフェンスの基礎を固めることができるようになり、OF でも個々人がスキルを伸ばしつつチームとして成長することができたと感じた。

また今回のハンガリー遠征ではいつもの NTA 合宿と違い、長期間で行われるものであったため、親元から離れ、一人の人間そして一流のハンドボール選手として成長していくために自立して、周りに気を配ることが一番要求させる合宿であったと思う。

結果として今回の合宿で集合時間にゆとりをもって集まることや、食事をする際にその国での食事マナーに気をつけることなど、相手の気持ちを第一に考える思いやり精神を持ち、一流のハンドボール選手としてのふるまいを完璧にこなすことができなかった。しかし、普段の生活とは違い、何事も自分の力で行わなければならない状況下で培ったものは、今後の人生における大きな財産になったと強く感じた。

## 女子代表　小山　茜

この欧州遠征を通して、技術面また生活面において、自分の大きな課題を見つけることができました。

技術面の OF ではセンターが攻めているときに休んでいることが多く、ボールをもらってから攻めることができていないことがあった。DF では、隣がどのくらい守れているのかの判断ができていないことにより、自分の動きの判断も早くできずにいた。この気づきができたことにより、これからは、OF ではボールをもらうときはステップを踏みながら、またセンターの動きを見ながら攻める準備をすること。DF では、隣の人の声を聞いて、予測力もつけ、自分の動きを明確にしたい。

コートの外では、自分のことばかりでみんなへの気配りが少なく、代表としての行動ができていなかった。たとえば、仲の良い人とだけ話していた。そうではなく、多くの人と会話をすることで、相手の思いもどんどん取り入れ、行動にも移し、さらに自ら考えての行動もできるようにしたい。自分の殻をやぶって、思いも伝えて行動することも意識して、人としても成長し、コートでも自立したプレーができる人になりたいです。

今回は言われてから改善して行動にすることが、プレーでも普段の生活でも多かったのが、今の私たちの弱点だと思いました。

スタッフの方に言われたのならすぐに行動する。また何かやる前に自分で考えて行動できる自立（律）した選手になっていけるようにしたいです。

# 男子選手団

| 役職 | 名前 | ふりがな | 所属 | |
|---|---|---|---|---|
| NTA 副委員長 | 松永　康宏 | まつなが　やすひろ | (公財)日本ハンドボール協会 | 川崎市立高津高等学校 |
| NTA コーチ | ネメシュ　ローランド | ねめしゅ ろーらんど | (公財)日本ハンドボール協会 | 法政大学 |
| NTA コーチ | 大原　雅広 | おおはら　まさひろ | (公財)日本ハンドボール協会 | つくば市立手代木中学校 |
| NTA GK コーチ | 北野　香代 | きたの　かよ | (公財)日本ハンドボール協会 | 横浜市立六角橋中学校 |
| NTA 運営委員 | 岸本　千紗 | きしもと　ちさ | (公財)日本ハンドボール協会 | |
| トレーナー | 竹内　いずみ | たけうち　いずみ | (公財)日本ハンドボール協会 | 株式会社　T-FUNCTION |

| | 都道府県 | 名前 | ふりがな | 所属 | 生年月日 | 学年 | 身長 | 特記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 沖縄県 | 親泊　寛粋 | おやどまり　かんすい | 興南高等学校 | 2003.04.07 | 高1 | 181 | |
| 2 | 大阪府 | 土岐　勇斗 | とき　ゆうと | 大阪体育大学浪商高等学校 | 2003.04.08 | 高1 | 181 | |
| 3 | 岐阜県 | 横田　　怜 | よこた　れん | 高山西高等学校 | 2003.05.20 | 高1 | 182 | |
| 4 | 富山県 | 鎌仲　大夢 | かまなか　ひろむ | 高岡向陵高等学校 | 2003.05.21 | 高1 | 170 | |
| 5 | 鹿児島県 | 久木﨑　　匠 | くきざき　たくみ | 国分高等学校 | 2003.05.26 | 高1 | 177 | GK |
| 6 | 北海道 | 臼井　拓己 | うすい　たくみ | 函館大付属有斗高等学校 | 2003.06.02 | 高1 | 185 | |
| 7 | 三重県 | 栗田　哲太 | くりた　てった | 四日市工業高等学校 | 2003.06.03 | 高1 | 182 | |
| 8 | 富山県 | 杉本　偲哉 | すぎもと　しいや | 氷見高等学校 | 2003.06.04 | 高1 | 182 | |
| 9 | 山口県 | 竹下　晴日 | たけした　はるひ | 徳山商工高等学校 | 2003.07.15 | 高1 | 172 | |
| 10 | 沖縄県 | 安里　健伸 | あさと　けんしん | 興南高等学校 | 2003.06.28 | 高1 | 175 | 左 |
| 11 | 高知県 | 後藤　圭汰 | ごとう　けいた | 高知中央高等学校 | 2003.07.29 | 高1 | 183 | 左 |
| 12 | 北海道 | 小山内　夢琉 | おさない　むいる | 函館大付属有斗高等学校 | 2003.08.01 | 高1 | 182 | GK |
| 13 | 愛知県 | 細野　聖太 | ほその　しょうた | 春日丘高等学校 | 2003.08.01 | 高1 | 181 | 左 |
| 14 | 千葉県 | 鴻巣　開輝 | こうのす　はるき | 市川高等学校 | 2003.08.12 | 高1 | 176 | 左 |
| 15 | 富山県 | 松下　幸祐 | まつした　こうすけ | 高岡向陵高等学校 | 2003.09.09 | 高1 | 181 | GK |
| 16 | 北海道 | 加賀谷　柊斗 | かがや　しゅうと | 函館市立巴中学校 | 2004.07.25 | 中3 | 175 | 左 |

# 女子選手団

| 役職 | 名前 | ふりがな | 所属 | |
|---|---|---|---|---|
| NTA 副委員長 | 松永　康宏 | まつなが　やすひろ | (公財)日本ハンドボール協会 | 川崎市立高津高等学校 |
| NTA コーチ | ネメシュ　ローランド | ねめしゅ ろーらんど | (公財)日本ハンドボール協会 | 法政大学 |
| NTA コーチ | 大原　雅広 | おおはら　まさひろ | (公財)日本ハンドボール協会 | つくば市立手代木中学校 |
| NTA GK コーチ | 北野　香代 | きたの　かよ | (公財)日本ハンドボール協会 | 横浜市立六角橋中学校 |
| NTA 運営委員 | 岸本　千紗 | きしもと　ちさ | (公財)日本ハンドボール協会 | |
| トレーナー | 竹内　いずみ | たけうち　いずみ | (公財)日本ハンドボール協会 | 株式会社　T-FUNCTION |

| | 都道府県 | 名前 | ふりがな | 所属 | 生年月日 | 学年 | 身長 | 特記 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 三重県 | 今谷　琉果 | いまたに　るか | 四日市商業高等学校 | 2003.04.02 | 高1 | 165 | |
| 2 | 愛知県 | 白木　千奈理 | しらき　ちなり | 名古屋経済大学市邨高等学校 | 2003.05.11 | 高1 | 172 | |
| 3 | 富山県 | 小山　茜 | おやま　あかね | 高岡向陵高等学校 | 2003.05.18 | 高1 | 172 | 左 |
| 4 | 東京都 | 長谷川　真穂 | はせがわ　まほ | 明星高等学校 | 2003.07.22 | 高1 | 166 | |
| 5 | 愛知県 | 池　杏菜 | いけ　あんな | 名古屋経済大学市邨高等学校 | 2003.10.09 | 高1 | 167 | |
| 6 | 愛知県 | 杉浦　葵 | すぎうら　あおい | 名古屋経済大学市邨高等学校 | 2003.10.30 | 高1 | 172 | 左 |
| 7 | 埼玉県 | 荒井　美咲 | あらい　みさき | 埼玉栄高等学校 | 2003.11.17 | 高1 | 165 | |
| 8 | 東京都 | 村山　彩音 | むらやま　あやね | 佼成学園女子高等学校 | 2003.12.29 | 高1 | 167 | GK |
| 9 | 香川県 | 溝淵　那月 | みぞぶち　なつき | 高松商業高等学校 | 2004.01.14 | 高1 | 167 | |
| 10 | 福岡県 | 外口　若奈 | ほかぐち　わかな | 筑紫女学園高等学校 | 2004.01.23 | 高1 | 169 | 左 |
| 11 | 石川県 | 高来　葵美 | たかぎ　あいみ | 小松商業高等学校 | 2004.03.08 | 高1 | 165 | |
| 12 | 熊本県 | 作本　夕莉 | さくもと　ゆうり | 玉名市立玉名中学校 | 2004.05.16 | 中3 | 175 | GK |
| 13 | 沖縄県 | 名嘉　陽菜 | なか　はるな | 沖縄市立 美東中学校 | 2004.05.16 | 中3 | 168 | |
| 14 | 石川県 | 紺谷　利紗 | こんや　りさ | 小松市立 芦城中学校 | 2004.08.27 | 中3 | 167 | 左 |
| 15 | 群馬県 | 小幡　みなみ | おばた　みなみ | 甘楽町立 甘楽中学校 | 2005.08.23 | 中2 | 173 | |

# 第24回女子世界選手権熊本大会参加に向けて

国際審判員　池渕 智一　檜﨑 潔

この度、国際ハンドボール連盟（IHF）より指名を受け、熊本県にて行われる第 24 回女子世界選手権にレフェリーとして参加することとなりました。

まず、日頃よりお世話になっております、高野競技本部長、福島審判本部長を始め、諸先輩方のこれまでのご指導のおかげで自国開催となる今大会に審判員としてノミネートされましたこと、厚く御礼申し上げます。また、池渕の地元である岐阜県協会の堤会長、加藤理事長、杉森副理事長、には国際大会への派遣に関わり、職場への理解を得るためにご尽力を頂き、重ねて感謝申し上げます。また、檜﨑の勤務先である広島経済大学の石田理事長をはじめ、快く送り出してくださる両勤務先の教職員の皆様には本当に感謝しております。

我々は 1997 年にペアとしての活動をスタートし、レフェリーコースで B 級、その 2 年後に A 級を取得して 2006 年に AHF レフェリーコースを経て、IHF の GRTP コースに参加し資格を取得しました。その年に初めての世界選手権となるカナダで行われた女子ユース世界選手権に参加、2011 年のブラジルでの女子世界選手権、2015 年にカタールで行われた男子世界選手権等、各カテゴリーの世界選手権を経験し、今回が 12 回目の IHF 世界大会参加となります。

今回の大会は我々にとってこれまで以上に非常に大きな意味を持つ大会であると考えています。それはまず、自国である日本での大会ということです。日本代表おりひめ JAPAN の応援や世界のトッププレーを観戦するために、熊本に多くのハンドボールファンが足を運ばれることと思います。映像ではなく、直接そのプレーを観戦できるその場に、レフェリーの日本代表として我々がコート上に立たせていただく責任の重さを感じ、吹笛しなければと思います。

もう一つは、東京五輪前直近の世界選手権であるということです。日本代表チームは東京五輪への出場が決まっていますが、レフェリーは誰が選ばれるか決まっていません。国際大会での吹笛一つひとつが評価されます。選手・観衆の皆さんに納得していただけるように吹笛するのはもちろんですが、五輪前の最後の世界選手権大会で一つひとつのプレーを的確に見極め，東京五輪のコートに立てるようにしたいと思います。

そして、何よりも日頃より応援してくださっている多くの方々に感謝の気持ちで吹笛したいと思います。

さて、近年のシニア世界選手権では、3 日間の事前セミナーが実施されており、今大会も同様に選考を兼ねた事前セミナーが 6 月 21 日から 23 日まで、デンマークのコペンハーゲン空港から車で 20 分ほどの所にある複合スポーツ施設、House of Sport で行われました。今セミナーは大きく分けて 3 つの内容で進められました。1 つ目は、5 つのグループごとに与えられたテーマについてのプレゼンテーション。2 つ目に、フィットネスコーディネーターによるトレーニングおよび栄養指導。そして 3 つ目に各種テストです。これらにおいて共通理解を深めるとともに、ノミネートされた 19 ペアの中から 16 から 17 ペアを選考するというものでした。

まずプレゼンテーションについては、事前に分けられたグループに課題が与えられ、互いに連絡を取り合いながらセミナーまでに 90 分のプレゼンテーションを作成しました。各グループに担当の指導者がおり、必要な時にはアドバイスをもらいながら準備を進めました。各グループに与えられた 5 つの課題は次の通りです。「Rule 8」(CHN, FRA, GER, KOR)、「7m スロー」(CUB, EGY, SLO, SWE)、「モダンレフェリングスタイル」(ESP, ROU, URU)、「パッシブプレー」(CRO, DEN, SRB, TUN)、「アタッカーズファール」(ALG, ARG, JPN, RUS)、この 5 つについて映像を用いて、判定基準や考え方が同じになるように説明し、その根拠となる競技規則やポイントを確認しました。

２つ目に、ガレーゴ氏が IHF 審判長に就任してから、これまで以上に良いフィジカルコンディションを求められるようになり、IHF もレフェリーへの指導を強化しています。スペイン人の専属のフィットネスコーディネーターを２名配置しており、世界選手権にも帯同させてレフェリーへのトレーニング指導を行なっています。また、大会前には彼らから大会前のトレーニングメニューが送付され、それに従って大会前のトレーニングを行います。週の初めにはトレーニングを促すメールが送られてきたり、質問がある場合には答えてくれたりしています。彼ら２人も今回のセミナーに参加し、普段のトレーニングやゲーム前のウォーミングアップ、栄養についての指導を受けました。また、POLAR を利用したトレーニング管理も行なっており、まだ受け取っていなかったレフェリーには POLAR の腕時計が支給され、使い方のレクチャーも受けました。

３つ目に、テストについては、競技規則問題集からのルールテスト、ビデオテスト、シャトルランテストを行いました。シャトルランテストについては、将来的には FIFA も利用している CODA テストに変更する予定があるようで、試験的に実施されました。

この他に、地元女子クラブチームである Ajax に協力していただき、ミニゲームや攻防トレーニングを通してディフェンスシステムや状況に応じた注意すべき点等の指導を受けました。特に、７人攻撃時や１名退場時の６人攻撃の際に発生する、「ノーゴールキーパー」の状況や、チームが時間を浪費したい時に見受けられる、自陣から相手コートまで歩いて移動する等の「ウォーキングハンドボール」など、レフェリーが試合の状況やチームの戦術に応じて起こり得ることを予測しながらゲームをリードしていくことの重要性をレクチャーされました。

最後に、PRC 委員長のガレーゴ氏と、CCM 委員長のシュペーテ氏から挨拶があり、総括として、セミナーでの内容をまとめたものを参加国に周知してさらなる共有を図ることを考えていることが伝えられ、セミナーを終了しました。

７月下旬、大会への正式なノミネートが我々のところへ届きました。今回のセミナーの内容を踏まえ、これまでの経験の全てを熊本のコート上で出し切れるよう、そして次のステージに繋がるように、大会までの期間でしっかりと準備を進めていきたいと思っています。

報告者（2019 年男子ジュニア世界選手権にて）

グループごとのプレゼン準備の様子

プレゼンの様子

フィットネスコーディネーターによるトレーニング指導

セミナーに協力してくださった Ajax のメンバーとセミナー参加者

# 改めて、今、部活動を考える その2 最終

島沢 優子　ジャーナリスト。筑波大卒。元日刊スポーツ新聞記者。『部活があぶない』（講談社現代新書）など著書多数。

10月上旬、鹿児島県出水市の私立高校サッカー部で、監督が部員に殴る蹴るの暴行を加えている動画がインターネット上で公開され問題になった。動画は練習風景を映したもので、監督が生徒を呼びつけるといきなり足を蹴り、さらに顔を殴った。その場に倒れ悶絶するような生徒の姿が映されていた。

監督は学校側に対し「素直に話を聞かないので、いけないのはわかっていたが手を出してしまった」と暴力に至った経緯を説明したものの、生徒への謝罪の言葉はなかったという。それどころか、「厳しい練習も今後に生きる」という趣旨の発言をしたと報道された。

サッカーに限らず、日本のスポーツ界では小中高の育成期の選手に対する暴力や暴言を用いたパワハラ指導は一向になくならない。理由の一つとして挙げられるのは、何よりも勝つことを優先させてしまう「勝利至上主義」だが、上記のような抑圧する指導では勝つことはできないことはすでにお伝えした。

では、どうすればいいのか。選手のモチベーションをアップさせる手段を、これまでのように暴力や暴言ではなく、違うものを考えなくてはいけない。

脳科学的には、結果のみを称えるのではなく、プロセスを褒めることが対象者（選手）の成長につながるとされる。少しの進歩である「スモールステップ」を認めなくてはいけない。

「これができるようになったくらいで、いい気になるな。満足するな」

おそらく、そんな声掛けをしていた人が少なくないだろう。

スモールステップを認めて伸ばすモチベーションアップの方法を結果に結につけたのが、青山学院大学駅伝部の取り組みだ。

「今回は、ワクワク大作戦でいきまーす」

2014年度箱根駅伝レース前の監督会見で、駅伝部の原晋監督はニコニコしながら宣言した。この一見ふざけたような作戦名は、優勝候補に挙げられ緊張気味だった空気を変えたくて思いついたらしい。長距離走のイメージといえば、「おまえ、男だろ！」などと叱られながら顔をゆがめて走る。そんなイメージを変えてくれたように思う。

監督に就任したばかりの頃は、練習に遅刻する者もいて競技に取り組む意識が低かったそうだ。そこで、学生の意欲喚起に重きを置き、四つのことを心掛けた。

①萎縮させず、寛容になること。

②コミュニケーションを一方通行にしないこと。

③具体的な指示を出し過ぎないこと。

④実現可能な目標設定にさせて、少しの進歩をほめること。

原さんが着目した意欲喚起は、平たく言えば「選手のやる気を出させる」。つまり、怒鳴りや抑圧を用いないモチベ―アップの方法だ。

人の「やる気」にかかわる場所は、大脳基底核の一部である「線条体」だ。行動と情感を結びつけたり、筋緊張の調整に関与した神経細胞の集合体で、ここをうまく刺激することがパフォーマンスの向上に直結するという。

原さんのように、対話して、認めて、ほめると、“線条体”が活性化する。選手は、次もやればほめられる、認められそうだと、脳が勝手に推測してくれる。やる気の条件付けがしやすくなるわけだ。

そのうえ、原さんは無理そうな目標設定にさせない。例えば、目標タイムにその時点では遠く及ばなくても、前日のタイムより縮めていればほめ、選手の努力を認める。少しずつ進化するスモールステップを取り入れるのだ。選手の側からすれば、少し頑張ればほめられる。少しずつ実現可能に思えてくるともっと頑張ろうと思う。常に前向きでいられる。

このような原監督が行う指導法は「強化学習」と呼ばれる。本質的な強化になるからこそ、そう命名されたのだろう。しかも、その際の指導者と生徒は、互いに意見を言い合える対等な関係を結んでこそ学習はうまくいく。

逆に、けがをしているのに打ち明けたら二度と試合に使ってもらえないとか、監督の作戦はレベルが高すぎてついていけないのにそれを言えば機嫌を損ねるから何も言えないといった関係性では、スモールステップを踏むことは不可能だ。

そして、この強化学習の対極にあるのが「一発学習」。別名「恐怖学習」とも言われる。

恐怖学習とは、指導者は生徒に対し常に上から目線をとる学習のさせ方だ。怒鳴ったり、時には鉄拳を振るい圧力をかけ「監

督が恐いからやるしかない」と生徒を奮起させる古い手法である。そんな生徒を抑圧する指導こそ、この一発学習に該当する。
安易な一発学習のやり方に依存していては、コーチの指導力も伸びない。

自らの気づきによって、一発学習から強化学習へと指導方法を変えた指導者をひとり紹介したい。糸井嘉男というひとりの選手によってブラック部活脱出を遂げた、近畿大学野球部元監督の榎本さんだ。
プロ野球選手（現阪神）となった糸井嘉男が大学時入部したのが近畿大学野球部だった。90 年代後半、榎本さんは鬼コーチで鳴らしていた。
「当時は、罵声、罵倒、鉄拳制裁。ホンマ鬼やった。そやけど、怒ったら必ずフォローする。げんこつ入れた後は、諭したり、励ましたり。殴った俺の拳のほうも痛いんやでと話した。そうやってフォローするんが指導者の役目やと思ってました」
まさに一発学習の代表的な指導法である「アメとムチ」だ。
ところが、のちに「球界の宇宙人」と呼ばれる糸井にそのやり方は効かなかった。糸井は、プロ野球入団前に行われた球団関係者との会食後、スポーツ記者から「どうだった？」と入団の可能性を尋ねられ、「海老フライでした」と出された料理名を答えた超天然系。
彼には榎本さんの一発学習の効き目が、まったく見えてこなかったという。
いくら怒鳴っても指示通り動かない。初球バントのサインを出せば「いい球が来ませんでした」と、２ストライク後にバントを行うスリーバントを素知らぬ顔で決めてきた。失敗すれば即アウトになるのに。
「この子は今までのやり方では通用しない。伸び伸び育てなあかん」
榎本はすぐさま、糸井に対する指導を変えた。だが、チームで糸井だけを特別扱いはできない。当時はまだ世間的にも怒鳴ってやらせる時代だったが、選手全員に対し、話して理解させやる気を喚起する指導に切り替えた。

その陰には、かなりの葛藤があった。夜中に寝ていた布団から飛び出し、家の壁に向かって拳をぶつけたという。寝室の壁にいくつも穴を空けた。
「選手のあかんかったプレーが頭に浮かぶんです。全然眠れへん。怒鳴りもせんであの子ら育つんやろうか、と。ほんま、ストレスがたまりました」
榎本さんが過去の呪縛を振り払うべく葛藤するなかで、選手は徐々に変わり始めた。相手校のサインの研究を自分たちで始めたり、練習の遅刻がなくなったりと日常生活まで落ち着いてきた。そして、練習に自発的に取り組むようになると、技術もより身についたという。糸井もいつの間にか、押しも押されぬエースに成長していた。糸井のあとに入りエースに成長した大隣憲司（現千葉ロッテ［2019 年 10 月現在］）らも暴力とは無縁のまま育った。
コーチの指導スタイルが変われば、選手が変わる。榎本は大きな手ごたえを得た。
「僕にとっては糸井との出逢いが大きなターニングポイントになった。彼のおかげで、怒ってやらせる指導から脱却できたんやから。変われない人は、信念を勘違いしている。選手を力で動かす自分は厳しいコーチやというのは、信念とは違う。単なる自己満足です」

野球をやってきた大人達に話を聞くと「殴られたお陰で自分の今がある」と語る人は少なくない。そのことを榎本に話すと、意外な答えが返ってきた。
「殴られた人は、大器じゃなかったんでしょうね」
野球の指導者は凄い才能を前にすると、ほとんどの場合、その選手に強硬な態度はとらないというのだ。平たく言えば、甘くなるという。
「どうやってこいつをこのまま一流選手に育てたらいいのか？　と、みんな考えるんです。考えるということは、冷静にならにゃ、考えられんでしょう？　感情的になってワーワー言っておられん」
巨人にいた桑田真澄も高校時代は殴られていない。あいつもそう、あの選手も……と、榎本はプロ野球界でも超一流プレイヤーの名前を次々挙げていった。
糸井も才能豊かだったから、熱血をやめた部分もありますか？　質問したら、こう答えた。
「ま、それもありますが、それよりは性格ですかね。あんなにデカい体やのに、心は繊細なんでね。本人はプロとして大成した今でもそのあたりが悩みなんでしょうけど、僕にとっては（指導法を変えるきっかけになってくれて）良かった」
「今はもう、甲子園で日本一を狙えるような学校の監督さんはほとんどそんな考えだと思いますよ」
殴られたお陰で一流になった野球選手はいないというわけだ。
勝利するために、暴力や暴言をやめる。それがこれからの結果を生み出す指導者のあり方だ。
再度書こう。
導く者と導かれる者が対等な関係を結べない限り、本当の成長は生まれないと心得てほしい。